

# 広島城天守に関する基本的な情報について

令和5年度第1回  
広島城天守の復元等に関する検討会議

令和5年11月30日

# 目 次

## 1 天守築造期の歴史

- (1) 代表的な天守の築造年代 . . . . . 2
- (2) 広島城天守の築造期 . . . . . 3

## 2 広島城天守の特徴

- (1) 築造年代 . . . . . 11
- (2) 構成 . . . . . 12
- (3) 形式 . . . . . 13
- (4) 重・階 . . . . . 14
- (5) 規模 . . . . . 15
- (6) 破風 . . . . . 16
- (7) 五重の規模と意匠 . . . . . 20
- (8) 国宝保存法における  
旧国宝指定 . . . . . 21

## 3 広島城天守の修復履歴等 . . . . . 22

## 4 主な復元資料

- (1) 絵図 . . . . . 29
- (2) 指図 . . . . . 32
- (3) 保存図（実測図） . . . . . 33
- (4) 保存図（実測図） 参考資料 . . . . . 40
- (5) 古写真 . . . . . 41

## 5 現天守の築造について

- (1) 経緯 . . . . . 53
- (2) 広島市民の「天守再建」に對  
する思い . . . . . 55
- (3) 築造までの全体スケジュール . . . . . 56
- (4) 全体の設計図面 . . . . . 57
- (5) 外観復元年代 . . . . . 58
- (6) 石垣保存策 . . . . . 59
- (7) 竣工 . . . . . 61
- (8) 昭和の築城ブーム . . . . . 62

## 6 木造復元に関する経緯及び これまでの調査等について

- (1) 史跡広島城跡保存管理計画、  
整備基本計画 . . . . . 64
- (2) 耐震診断の実施 . . . . . 65
- (3) 全国的な議論の動向 . . . . . 66
- (4) 広島城のあり方に関する懇談  
会における意見 . . . . . 67
- (5) 石垣の現況調査 . . . . . 68
- (6) 復元資料の収集・整理 . . . . . 69
- (7) 市民の機運醸成 . . . . . 69

# 1 天守築造期の歴史

# 1 天守築造期の歴史

## (1) 代表的な天守の築造年代

※ゴシック体は現存。

年	代表的な天守（築城主）、主な出来事など
天正7年(1579)	安土城天主（織田信長） [天正10(1582)焼失]
天正13年(1585)	大坂城天守（羽柴秀吉） [慶長20(1615)焼失]
天正15年(1587)頃	聚楽第（豊臣秀吉） [文禄4(1595)頃廃城]
天正19年(1591)頃	肥前名護屋城天守（豊臣秀吉） [慶長3(1598)廃城]
天正20年(1592)頃	広島城天守（毛利輝元） [昭和20(1945)原子爆弾により倒壊]
天正20年(1592)頃	指月伏見城天守（豊臣秀吉） [文禄5(1596)地震により倒壊]
慶長元年(1596)頃	木幡山伏見城天守（豊臣秀吉） [慶長5(1600)焼失]
慶長2年(1597)以前	岡山城天守（宇喜多秀家） [昭和20(1945)空襲により焼失]
慶長5年(1600)	< 関ヶ原の戦い >
慶長5年-同20年 (1600-1615)	< 慶長の築城盛況期 > 熊本城天守、今治城天守、 <b>彦根城天守</b> 、江戸城天守(慶長度)、 <b>姫路城天守</b> 、岩国城天守、萩城天守、駿府城天守、 米子城天守、 <b>松江城天守</b> 、名古屋城天守、 <b>松本城天守</b>
慶長20年(1615)	< 大坂夏の陣、一国一城令、武家諸法度 >
元和以降(1615-)	福山城天守、大坂城天守(徳川)、江戸城天守(寛永度)

# 1 天守築造期の歴史

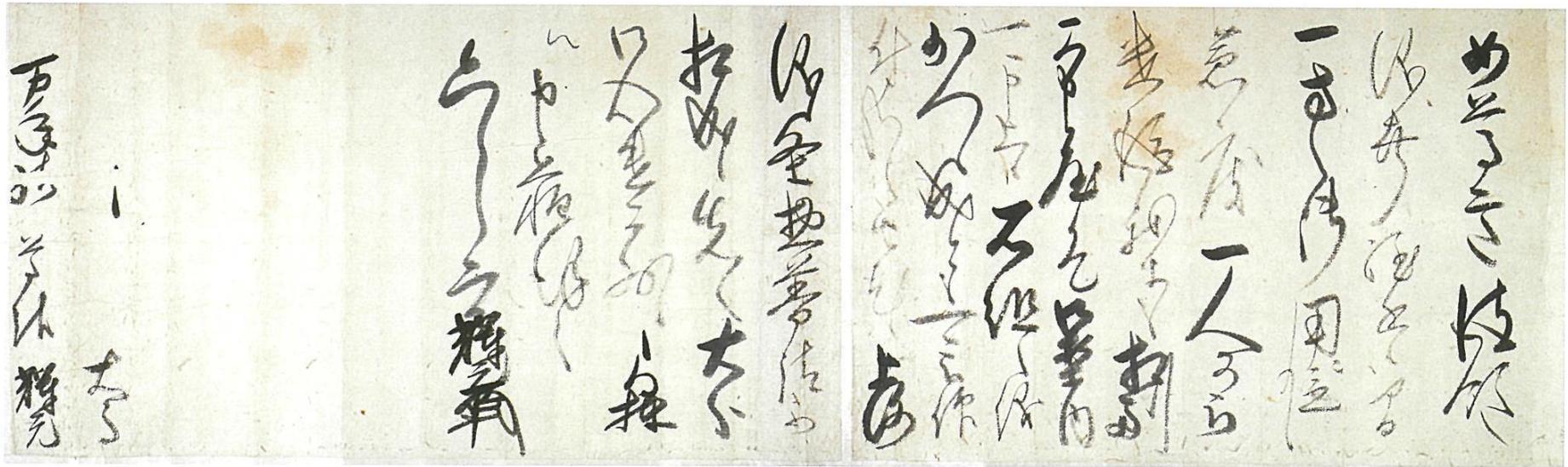
## (2) 広島城天守の築造期

### 輝元上洛直前の郡山城

天正16年(1588)6月2日

毛利輝元が洞春寺住職の万年に、この度の上洛によって「惣普請」が遅れると伝えている(洞春寺文書7)。

「上洛儀候条、惣普請不相成候」



毛利輝元自筆書状  
洞春寺蔵

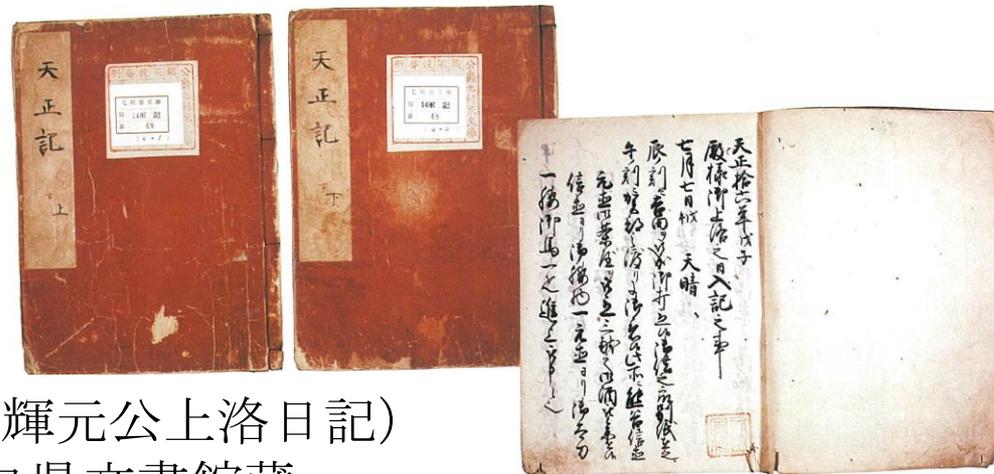
# 1 天守築造期の歴史

## (2) 広島城天守の築造期

### 毛利輝元の上洛

天正16年(1588)

- 7月 7日 郡山城を出発。7月22日、京に到着。
- 7月24日 聚楽第において関白豊臣秀吉に謁見。
- 9月 3日 京を離れる。9月7日、大坂に到着。
- 9月11日 豊臣秀吉の案内により大坂城天守に登る。
- 9月12日 大坂を離れる。9月19日、郡山城に帰着。



天正記 (輝元公上洛日記)  
山口県文書館蔵

# 1 天守築造期の歴史

## (2) 広島城天守の築造期

### 広島城の築城開始

天正16年(1588)12月18日

二宮就辰が井原元尚に、「佐東普請」が来年開始される予定であると伝える（井原家文書145）。

「佐東御普請、改候ハヽ定而可被仰付候」

天正17年(1589)3月18日

毛利輝元が志道元幸に、「佐東普請」のため3月25日までに人数と道具を調べて出頭するよう命じる（「譜録」志道隼人元徳）。

「佐東普請申付候間、来廿五日至彼表可有下着事専用候、人数道具等馳走尤候」

# 1 天守築造期の歴史

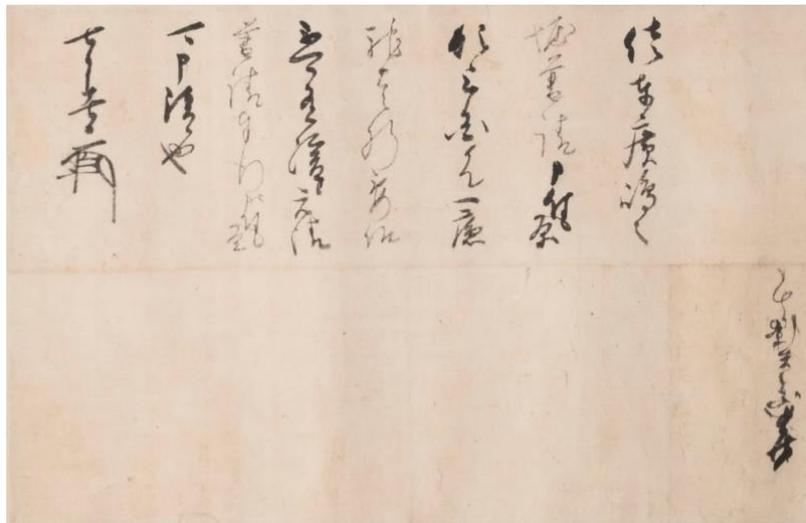
## (2) 広島城天守の築造期

### 地名「広島」の初出

天正17年(1589)7月17日

毛利輝元が井原元尚に、「佐東広島」の「堀普請」のため速やかに安芸に移動し、普請奉行の毛利(穂井田)元清と相談して工事を進めるよう命じる(井原家文書85)。

「佐東広島之堀普請申付候条、頓上国候て一廉馳走肝要候、不可有緩候、元清普請奉行ニ申付候条、可相談候也」



毛利輝元書状(井原家文書)  
個人蔵

# 1 天守築造期の歴史

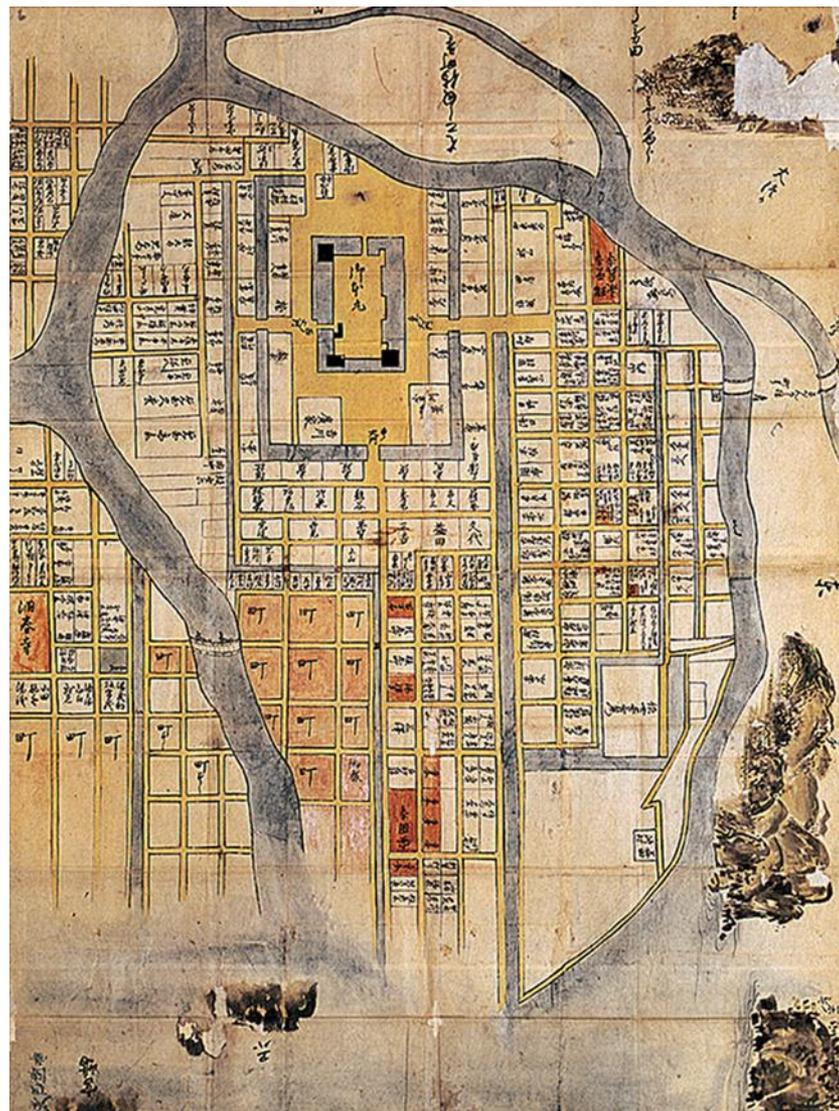
## (2) 広島城天守の築造期

### 毛利輝元の広島城入城

天正19年(1591)4月頃  
家臣の広島集住の動きがみ  
られ、広島城が政庁として  
機能し始める。

「御方之事、当島可有在宅由  
祝着候」

(天正19年4月22日佐波隆秀  
宛て毛利輝元書状、『萩藩  
閥閥録』巻71佐波庄三郎)



芸州広嶋城町割之図  
山口県文書館蔵

# 1 天守築造期の歴史

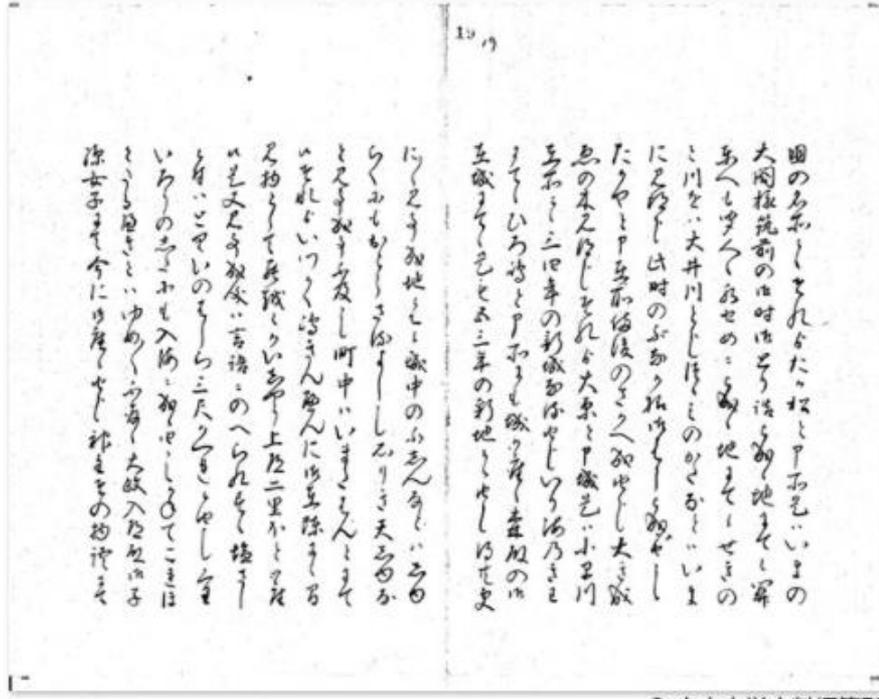
## (2) 広島城天守の築造期

### 平塚瀧俊による記録

天正20年(1592)4月上旬頃  
佐竹義宣の家臣・平塚瀧俊  
が肥前名護屋へ向かう途上、  
広島を訪れる。

天正20年(1592)5月1日  
平塚瀧俊が書状に「天守」  
が見事であると書き記す  
(名護屋陣ヨリ書翰)。

「石かき天しゆなと見事成事  
不及申候、町中ハいまたは  
んとにて候」



名護屋陣ヨリ書翰  
東京大学史料編纂所蔵謄写本

# 1 天守築造期の歴史

## (2) 広島城天守の築造期

### 豊臣秀吉の広島訪問

天正20年(1592)4月11日

豊臣秀吉は毛利輝元への朱印状において、広島<sup>の</sup>土木・建築は見事であり、輝元に似合いであると感心した旨を伝える（毛利家文書875）。

「殊更広島普請作事様子被御覧候、見事ニ出来、輝元ニ似相たる模様、被感思召候」

秀吉滞在中の様子を安国寺恵瓊外二名が毛利輝元に報じた起請文には、秀吉は「甲丸つめのまる両所」を見たとある（毛利家文書1041）。

「御堀きハより一御門を御入候て、甲丸両所 御覧候て、城取之様躰、思召候より 御仰天候、左候て、御殿へ御あかり、内外共に悉 御覧候て、御感不斜候」

## 2 広島城天守の特徴

## 2 広島城天守の特徴

### (1) 築造年代

#### 安土桃山時代（天正20年（1592）頃）

区分	築造年代
広島城天守	天正20年（1592）頃
犬山城天守	慶長元年（1596）頃※
岡山城天守	慶長2年（1597）以前
彦根城天守	慶長11年（1606）
姫路城天守	慶長13年（1608）
松江城天守	慶長16年（1611）以前
名古屋城天守	慶長17年（1612）
松本城天守	慶長20年（1615）頃
大垣城天守	元和6年（1620）
福山城天守	元和8年（1622）

区分	築造年代
丸亀城天守	正保2年（1645）頃
宇和島城天守	寛文5年（1665）
備中松山城天守	天和3年（1683）
丸岡城天守	貞享5年（1688）※
高知城天守	延享4年（1747）
水戸城天守	明和6年（1769）
弘前城天守	文化7年（1810）
和歌山城天守	嘉永3年（1850）
松山城天守	嘉永5年（1852）
松前城天守	安政元年（1854）

※ゴシック体は現存。

※築造年代は『図説 近世城郭の作事 天守編』、『天守 芸術建築の本質と歴史』（ともに三浦正幸著）による。

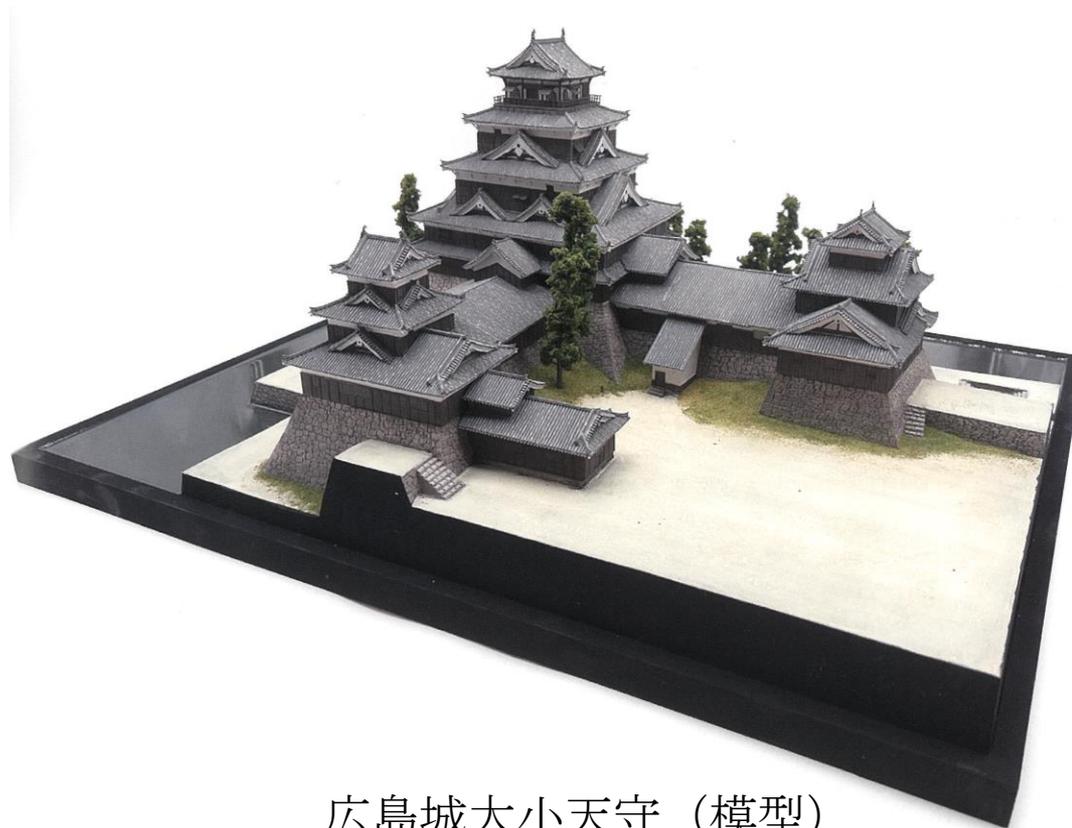
※犬山城天守、丸岡城天守の築造年代については諸説ある。

## 2 広島城天守の特徴

### (2)構成

#### 連結式（複連結式）

……小天守二棟が渡櫓（廊下）で大天守に連結される唯一の例。



広島城大小天守（模型）  
島充作

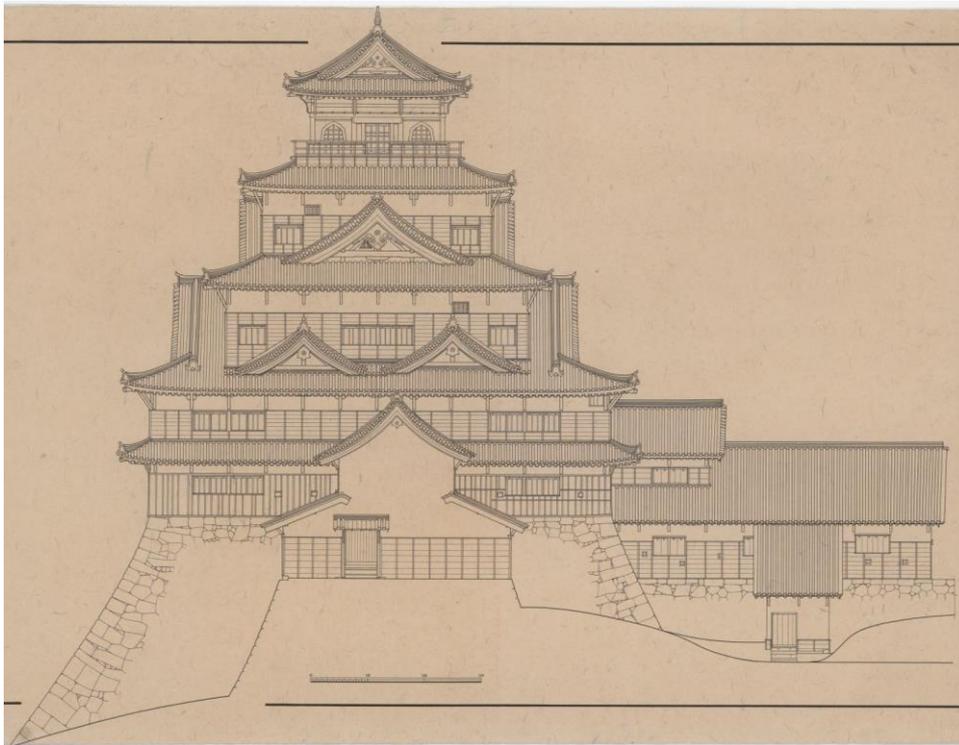
## 2 広島城天守の特徴

### (3)形式

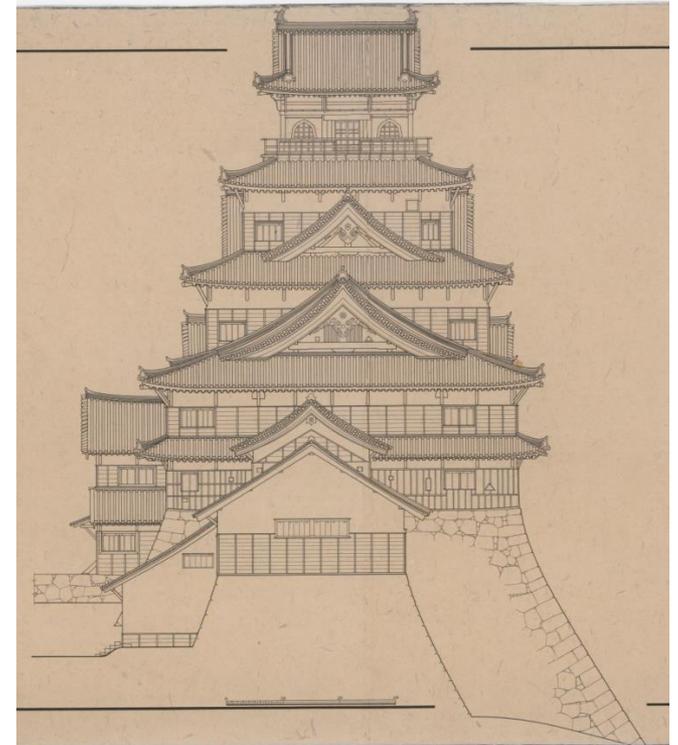
#### 望楼型

……二重の入母屋造の基部の上に三重の望楼部が載る形式。

※「望楼型」のほかに「層塔型」がある。



(左) 天守南立面図



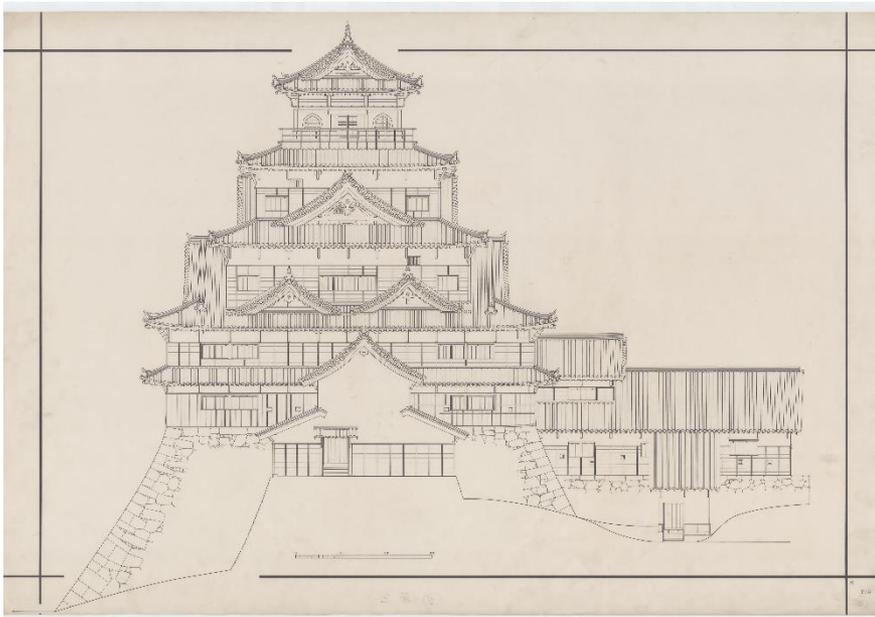
(右) 天守東立面図

## 2 広島城天守の特徴

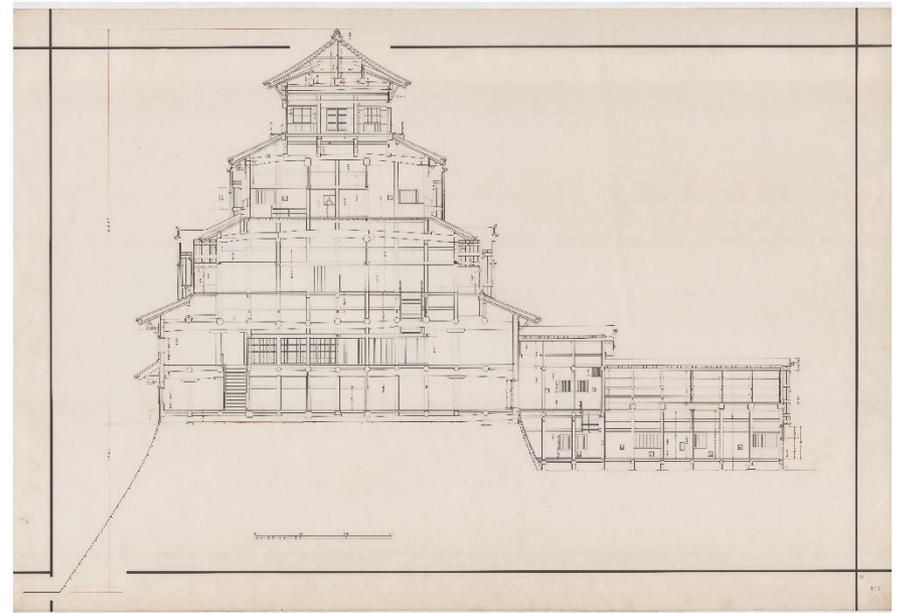
### (4)重・階

#### 五重五階（重階一致）

- ……外観の屋根の数(重)が5重、内部の床の数(階)が5階。
- ……「重」と「階」が一致している。
- ……地階（穴蔵）は無い。



(左) 天守南立面図



(右) 天守東西断面図

# 2 広島城天守の特徴

## (5)規模

### 平十二間、妻九間

区分	平面規模			重・階	参考	
	1階平	1階妻	1間の長さ		築造年代	形式
安土城天主	十三間か	十二間か	七尺	五重六階、地下一階	天正7年(1579)	望楼型
大坂城天守[豊臣]	十二間	十一間	七尺	五重六階、地下二階か	天正13年(1585)	望楼型
広島城天守	十二間	九間	六尺五寸	五重五階	天正20年(1592)頃	望楼型
犬山城天守	八間半	八間	六尺二寸	三重四階、地下二階	慶長元年(1596)頃	望楼型
岡山城天守	十三間	八間	六尺五寸	五重六階	慶長2年(1597)以前	望楼型
熊本城天守	十三間	十一間	六尺五寸	五重六階、地下一階	慶長6年(1601)頃	望楼型
彦根城天守	十一間	七間	六尺五寸	三重三階	慶長11年(1606)	望楼型
姫路城天守	十三間	十間	六尺五寸	五重六階、地下一階	慶長13年(1608)	望楼型
松江城天守	十二間	十間	六尺四寸	四重五階、地下一階	慶長16年(1611)以前	望楼型
名古屋城天守	十七間	十五間	七尺	五重五階、地下一階	慶長17年(1612)	層塔型
松本城天守	九間	八間	六尺五寸	五重六階	慶長20年(1615)頃	層塔型
大坂城天守[徳川]	十七間	十五間	七尺	五重五階、地下一階	寛永3年(1626)	層塔型
江戸城天守[寛永度]	十八間	十六間	七尺	五重五階、地下一階	寛永15年(1638)	層塔型

※ゴシック体は現存。1尺≒30.3cm、1寸≒3.03cm。

※1階平、1階妻、重階、築造年代は『図説 近世城郭の作事 天守編』（三浦正幸著）による。 15

## 2 広島城天守の特徴

### (6)破風

#### 広島城天守の破風

区分	概要
天守	(南面、北面) ・千鳥破風 3つ (うち二重屋根部分は比翼千鳥破風) ・入母屋破風 1つ (東面、西面) ・千鳥破風 1つ ・入母屋破風 1つ ※千鳥破風には、いずれも「破風の間」が無い。
小天守	・東小天守の初重屋根東面に軒唐破風がある。

## 2 広島城天守の特徴

### (6)破風

#### 千鳥破風

- ……関ヶ原の戦い以前に築造された天守のうち、多くの千鳥破風を設けた装飾性の高い天守。
- ……千鳥破風には、いずれも「破風の間」が無い。



天守西面写真  
個人蔵

## 2 広島城天守の特徴

### (6)破風

#### 比翼千鳥破風



天守南面写真（一部拡大）  
『史跡広島城跡資料集成 第一巻』より

## 2 広島城天守の特徴

### (6)破風

#### 東小天守の軒唐破風

東小天守の初重屋根東面には、最も意匠性が高い屋根形式の一種である軒唐破風が設けられている。



天守北東面写真

『大日本全国名所一覧—イタリア公使秘蔵の明治写真帖』平凡社刊より

## 2 広島城天守の特徴

### (7)五重の規模と意匠

- 五重は三間半四方の一室。廻縁と高欄が付されている。
- 妻（入母屋破風）側を正面とする。
- 五重のみ真壁造で、棧唐戸や華頭窓が設けられている。
- 枝割を基準に各部材の大きさが決められている。



天守北東面写真  
個人蔵

## 2 広島城天守の特徴

### (8) 国宝保存法における旧国宝指定

昭和5年(1930)

名古屋城天守

昭和6年(1931)

姫路城天守、岡山城天守、広島城天守、福山城天守

昭和9年(1934)

丸岡城天守、宇和島城天守、高知城天守

昭和10年(1935)

犬山城天守、松江城天守、和歌山城天守、松山城天守

昭和11年(1936)

松本城天守、大垣城天守

昭和12年(1937)

弘前城天守

昭和16年(1941)

備中松山城天守、松前城天守

昭和18年(1943)

丸亀城天守

※ゴシック体は現存。

#### 【参考】

現行の文化財保護法  
における文化財指定

#### < 国宝 >

犬山城天守

彦根城天守、附あり

姫路城大天守ほか

松江城天守

松本城天守

#### < 重要文化財 >

丸岡城天守

丸亀城天守

宇和島城天守

備中松山城

高知城

弘前城

松山城

### **3 広島城天守の修復履歴等**

### 3 広島城天守の修復履歴等

年	事 項	典拠
天正20年(1592)頃	広島城天守が築造される。	
承応2年(1653)	<p>大風雨により洪水、天守台にも被害が出る。  「八月六日、昨日より大風雨にて、今朝卯之刻より洪水、白島并方々堤切、御城中へも水入、(中略)  用破損之帖  一御天守西之方下ノ段土台・堀之石垣横四間半下り申候、(中略)  一同所北東之角石垣折廻シ四間はらミ申候、高サ祢石方弍間壹尺」</p>	玄徳公 済美録
元禄15年(1702)	<p>大風雨により洪水、天守にも被害が出る。  「七月廿八日御国許大風雨、郡々并三原城所々破損〔注略〕、八月廿九日・同晦日、猶又大風雨洪水ニ而、御城中初侍屋敷・町家等其外郡中所々破損ニ付、(中略)  引用書 用臨時御窺書扣同(中略)  一殿主并小殿主共ニ破損 三ヶ所」</p>	頭妙公 済美録

### 3 広島城天守の修復履歴等

年	事項	典拠
宝永4年(1707)	地震により天守ほかに被害が出る。 「引用書 勘真 宝永四年十月四日地震ニ付御領分損所帖 (中略) 一 弍拾ヶ所 「 御殿主御櫓并御門 堀・瓦白土損 」	顕妙公済 美録
享保7年(1722)	天守の修復を行う。 「享保七壬寅年六月廿八日 一 御殿主御繕之事」	事蹟緒鑑
享保11年(1726)	天守の修復を行う。 「六月廿八日、先年方御曲輪廻石垣孕出シ候間、此度 公儀江御願之上御膳ひ可被仰付趣ニ付、依之絵図面 出来 (中略) 一 御繕ヶ所左之通り 一 御本丸南小天守西之方大手下石垣 高サ一間四尺 五寸、横六間 」	吉長公御 代記
	「九月十日 (中略) 一 御殿主御櫓其外御修復之義ニ付被仰出之事」	事蹟緒鑑

### 3 広島城天守の修復履歴等

年	事項	典拠
享保15年(1730)	天守の修復を行う。 「享保十五庚戌年三月十一日 一明十二日と御殿主御繕=取掛り候との事 五月五日 一御殿主御修復相済候事」	事蹟緒鑑
享保17年(1732)	天守の修復を行う。 「享保十七戊子年五月十三日 一御殿主御修復有之、(中略) 閏五月朔日 一御修復相済候事」	事蹟緒鑑
宝暦14年(1764)	天守の修復を行う。 「宝暦十四甲申年四月廿一日 一御殿主御繕有之、新御屋敷見透候付知せ之事」	事蹟緒鑑
安永9年(1780)	天守の修復を行う。 「安永九庚子年六月廿五日 一御殿主御繕之儀申出之事」	事蹟緒鑑

### 3 広島城天守の修復履歴等

年	事項	典拠
寛政2年(1790)	天守の修復を幕府に届け出る。 「五月十五日、御国御天守近来所々損し候付御捨難被置ニ付、御修復被遊度旨之御届書今朝御用番御老中江御留守居を以被指出候処、（後略）」	恭昭公済美録
寛政5年(1793)	天守の修復を幕府に届け出る。 「七月十二日 一御城御天守御修復ニ付、御用番戸田采女正様江御届之事」	事蹟緒鑑
明治2年(1869)	版籍奉還	
明治4年(1871)	廃藩置県	
	鎮西鎮台第一分営が設置され、広島城が兵部省の管轄となる。	
明治5年(1872)	広島城が陸軍省の管轄となる。	
	門・櫓が解体される。 「六月諸門櫓ヲ解崩サル」	植木氏日記
明治7年(1874)	本丸一帯が焼ける。 「二月五日広島鎮台旧本丸一円焼ル」	植木氏日記

### 3 広島城天守の修復履歴等

年	事項	典拠
明治18年(1885)	明治天皇広島巡幸。明治天皇が天守に登る。	
明治28年(1895)	皇太子（後の大正天皇）が天守に登る。	
明治31年(1898)	天守の修復を行う。 「十月二十八日、一本日第五師団 <sup>(ママ)</sup> 経営部ニテハ旧城天主閣ノ破損ノケ所ニ修繕ヲ加フルヨシナリ」	植木氏日記
明治37年(1904)	天守の修復を行う。 「○工事請負入札 一旧広島城天主閣修繕工事（中略） 明治三十七年九月五日 留守第五師団経理部」	官報
大正15年(1926)	皇太子（後の昭和天皇）が天守に登る。	
昭和3年(1928)	陸軍省から広島県へ移管、一般開放される。	
昭和6年(1931)	広島城天守が国宝に指定される。	官報
昭和9年(1934)	明治天皇行幸記念展覧会の会場となる。	
昭和20年(1945)	原子爆弾により倒壊する。	
昭和24年(1949)	国宝の指定が解除される。	官報

## 4 主な復元資料

# 4 主な復元資料

## (1) 絵図

天守などの建物が表現されている主な絵図

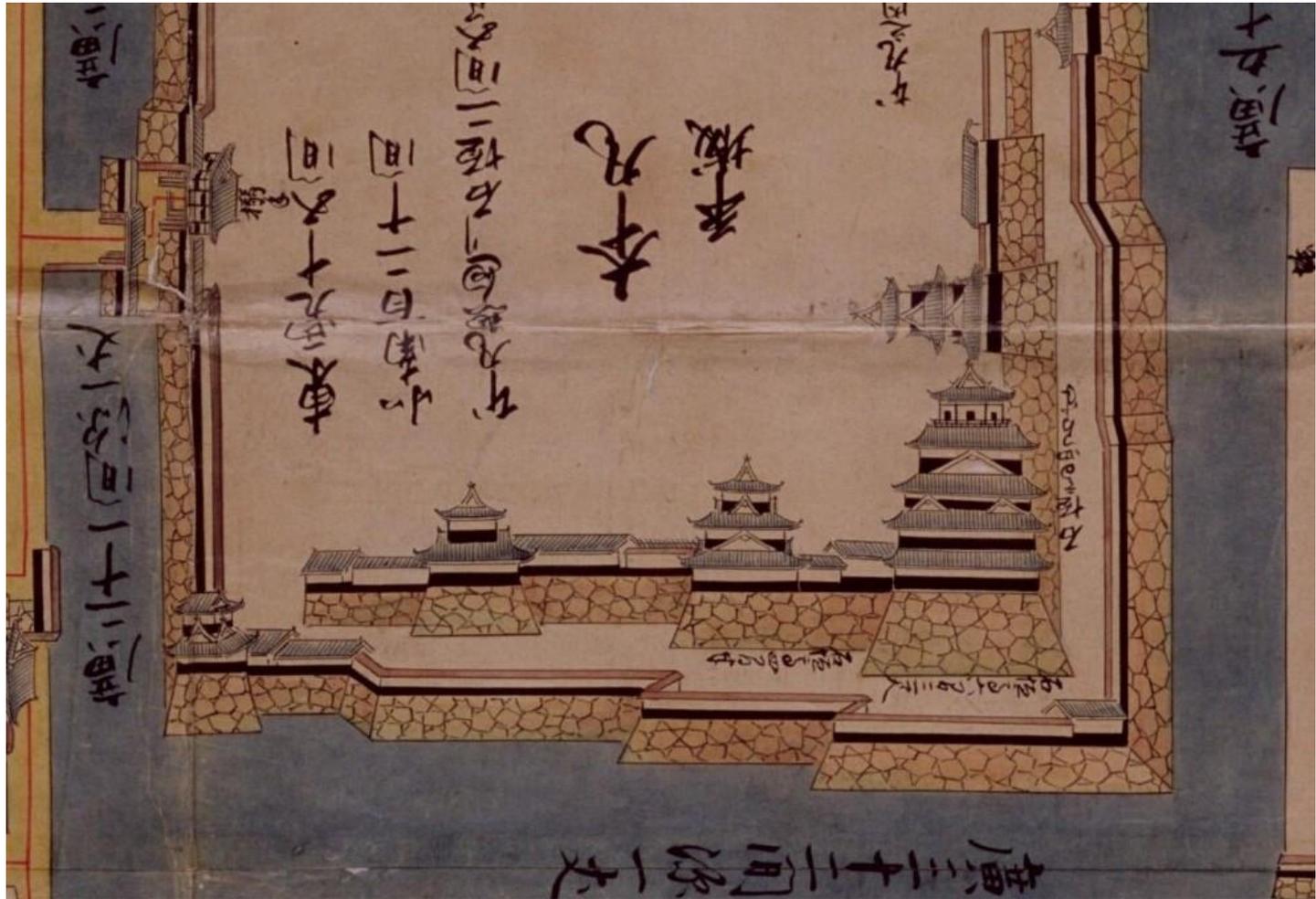
名 称	景観年代	所 蔵
寛永年間広島城下図	寛永年間(1624～1644)前期頃	広島城
安芸国広島城所絵図	正保2年～同3年(1645～1646)	国立公文書館
広島絵図(元和五年御入国 之砌御城下絵図)	正保2年～明暦3年(1645～1657)	広島市立中央図書館 (浅野文庫)
安芸国広島城図	元禄14年(1701)以前	広島城
安芸国広島城図	※18世紀中後期成立	福井県文書館
藝州廣島圖	天明3年～同8年(1783～1788)	東北大学附属図書館
広島全景図	文化9年～文政12年(1812～1829)	広島城
芸州広島図	文政10年～同13年(1827～1830)	広島城
芸陽広島茶碓山ヨリ眺望 略図	江戸時代幕末	広島市市民局文化ス ポーツ部文化振興課
御城下侍屋敷町新開絵図	万延元年～慶応3年(1860～1867)	個人

※景観年代は『広島城絵図集成』(平成25年、広島城)による。

※安芸国広島城図(福井県文書館蔵)の成立年代は『史跡広島城跡資料集成 第一巻』による。 29

# 4 主な復元資料

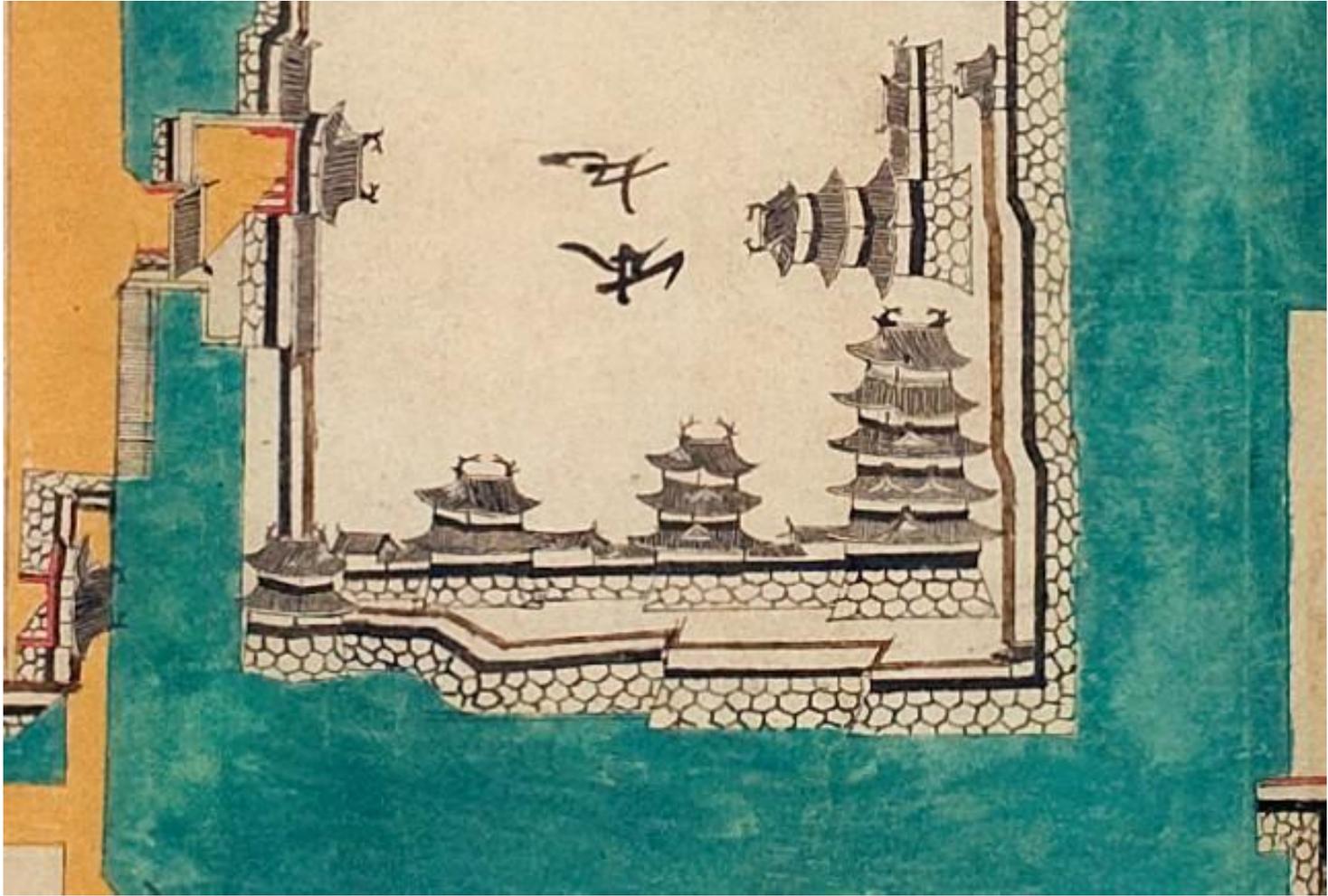
## (1) 絵図



「安芸国広島城所絵図」(天守部分拡大)  
国立公文書館蔵

# 4 主な復元資料

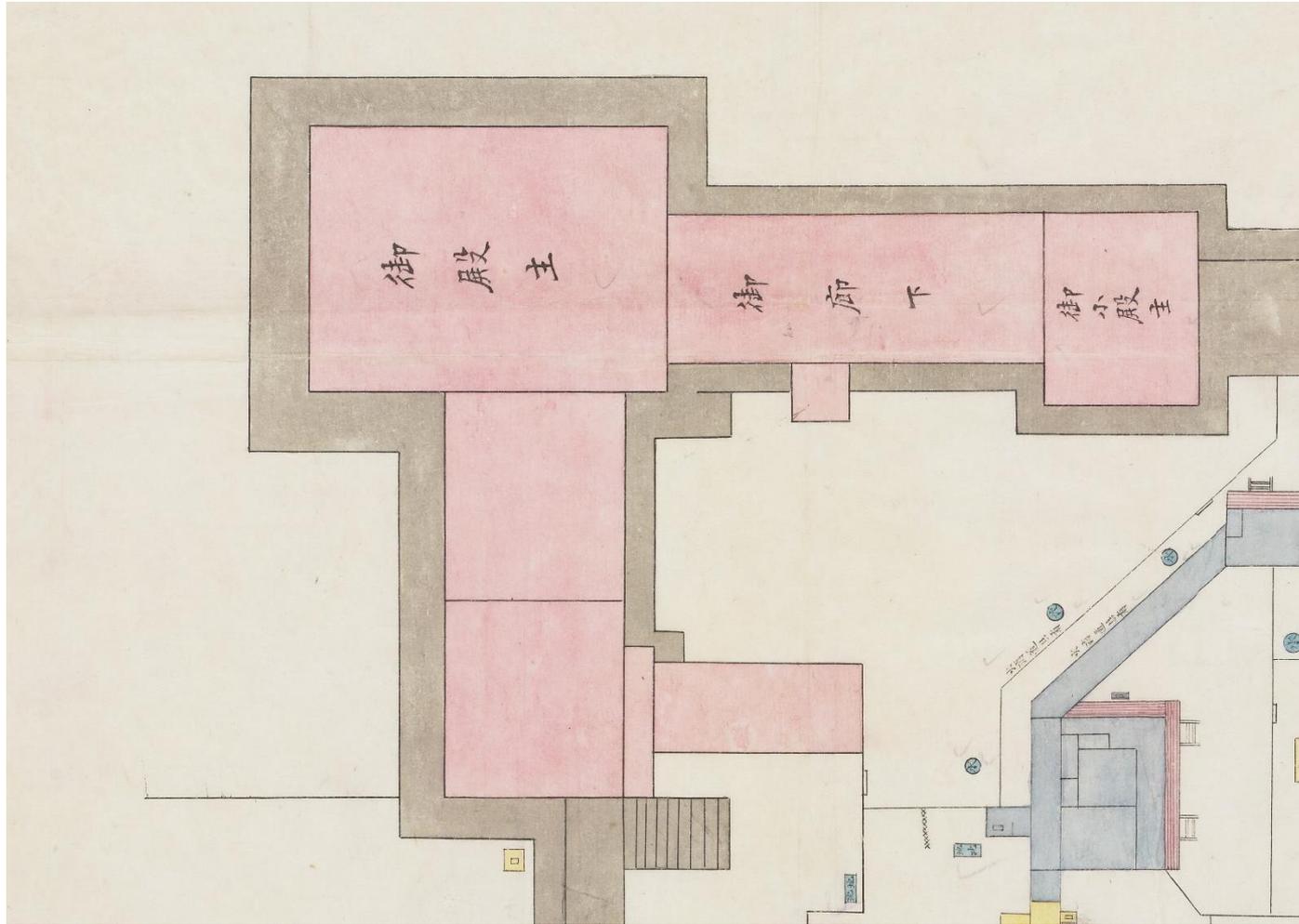
## (1) 絵図



「安芸国広島城図」(天守部分拡大)  
広島城蔵

# 4 主な復元資料

## (2)指図



「広島城内之図」（天守部分拡大）  
広島市立中央図書館（浅野文庫）蔵

# 4 主な復元資料

## (3)保存図（実測図）

奈良文化財研究所蔵（5枚）

天守南立面図、天守東立面図

天守東西断面図、天守南北断面図

南御廊下断面図及び南御廊下1階平面図・東御廊下断面図

姫路市立城郭研究室蔵（10枚）

南御廊下・東御廊下1階平面図

天守1階平面図及び南御廊下・東御廊下2階平面図

天守2階平面図、天守3階平面図、天守4階平面図

天守5階平面図

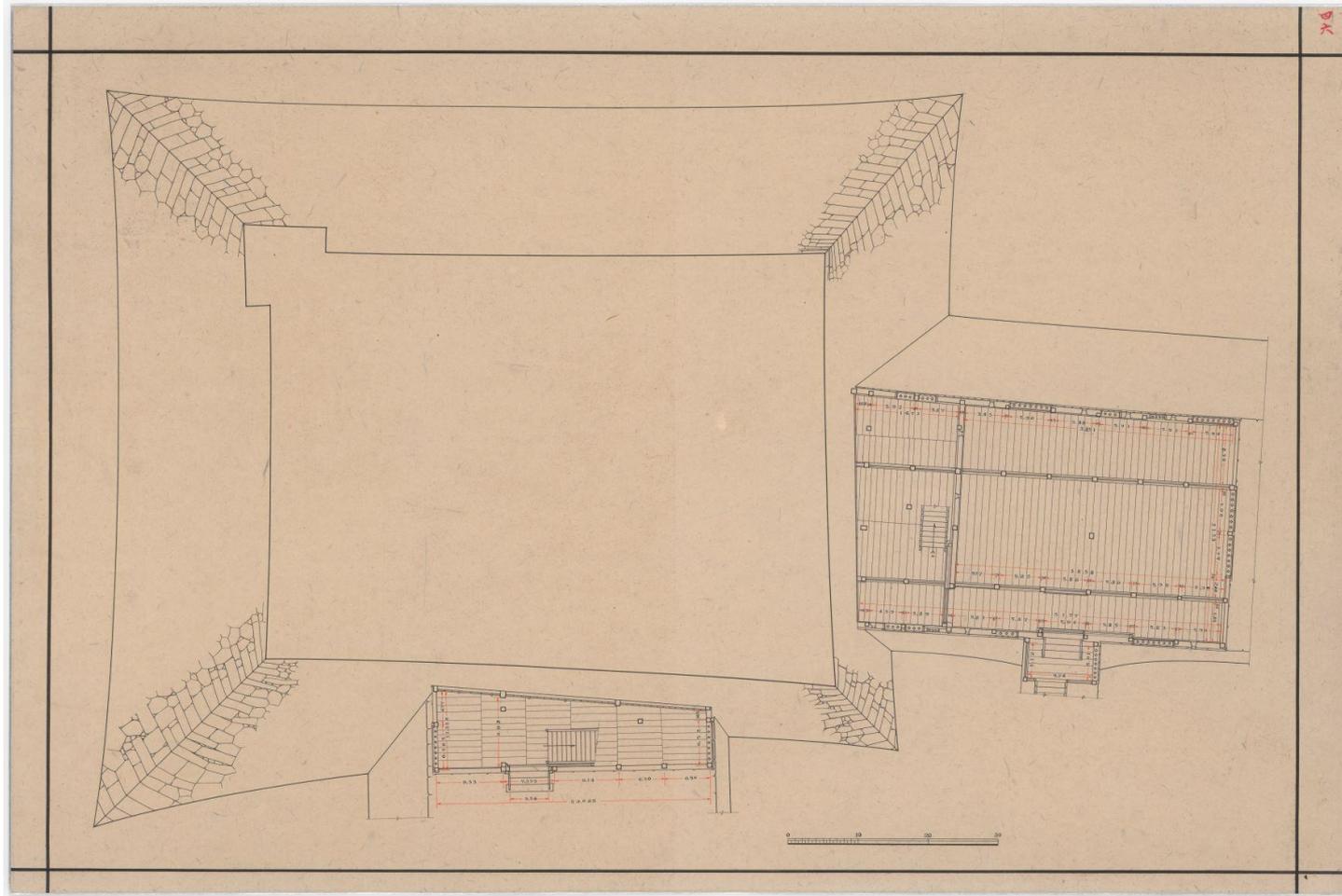
天守南立面図、天守東立面図

天守東西断面図、天守南北断面図

※ 重複する図面

# 4 主な復元資料

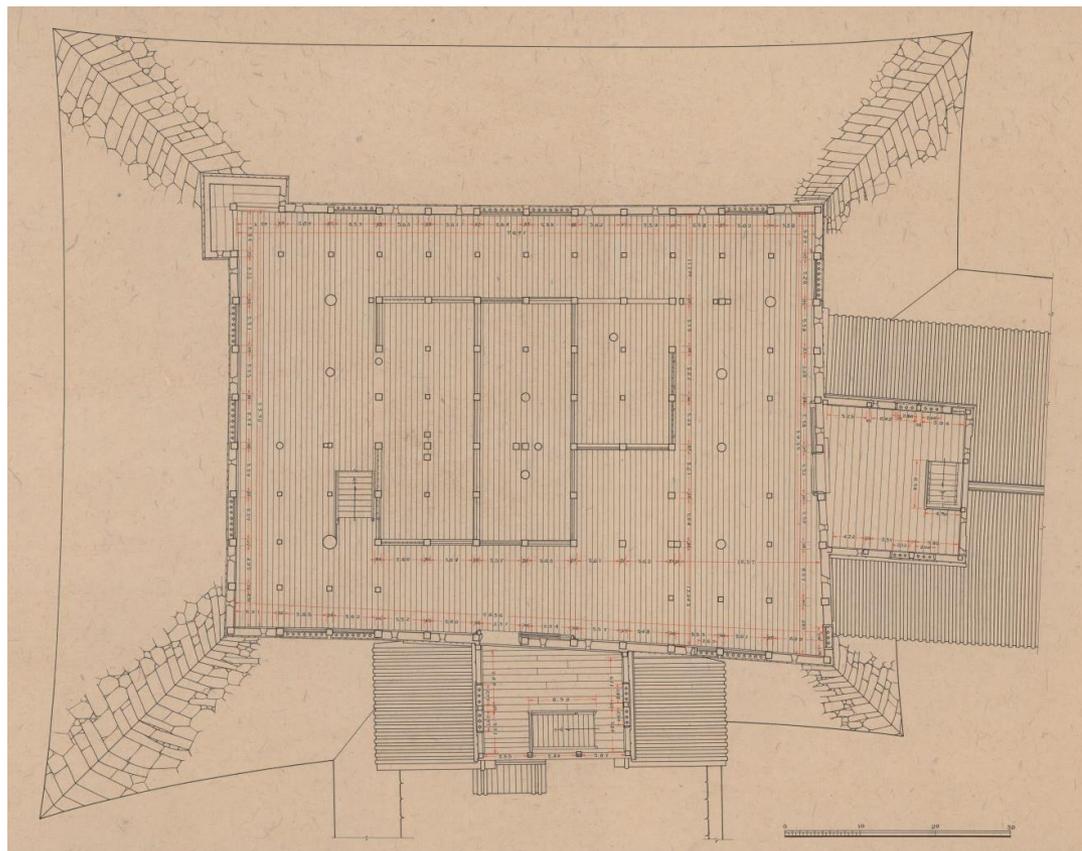
## (3)保存図 (実測図)



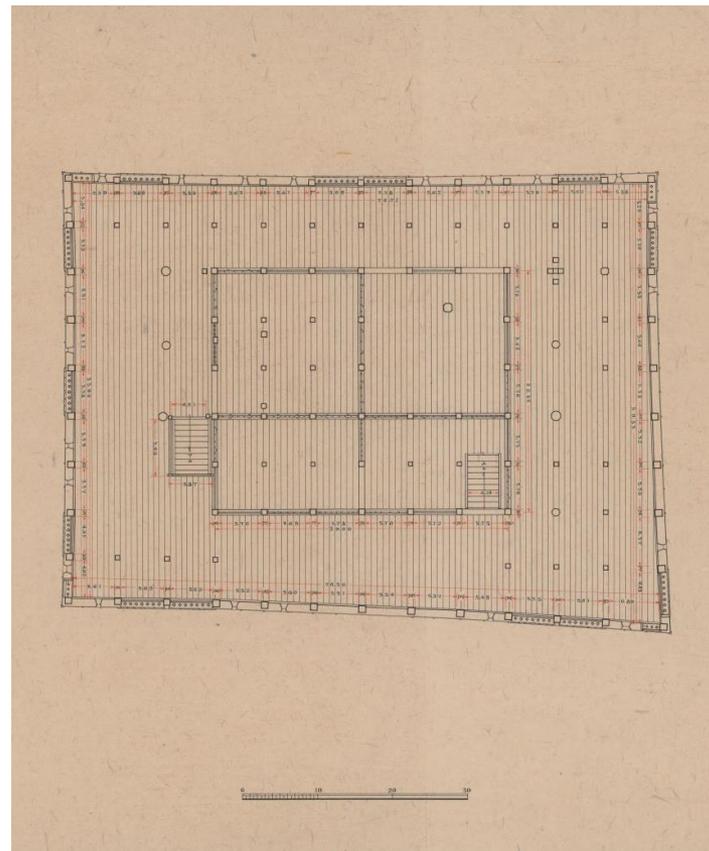
南御廊下・東御廊下1階平面図  
姫路市立城郭研究室蔵

# 4 主な復元資料

## (3)保存図 (実測図)



天守1階平面図及び南御廊下・東御廊下2階平面図

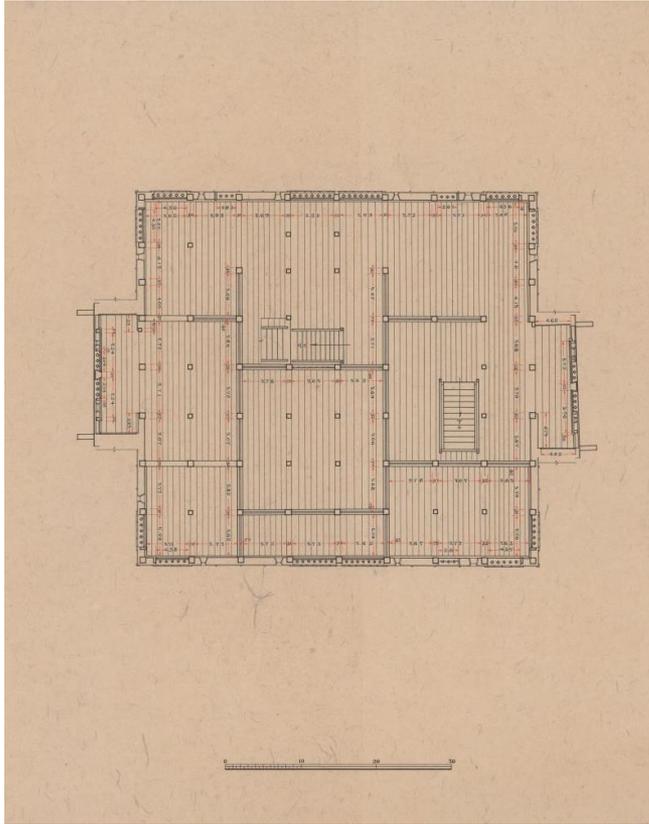


天守2階平面図

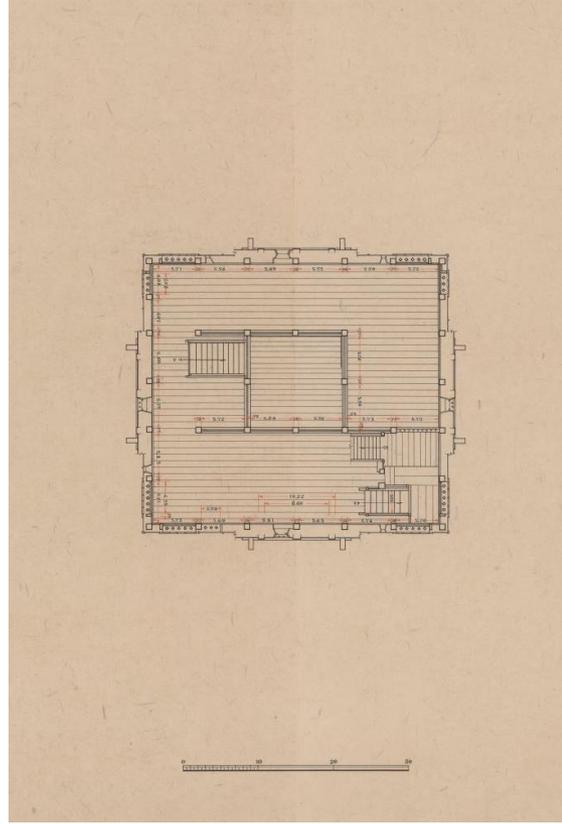
いずれも姫路市立城郭研究室蔵

# 4 主な復元資料

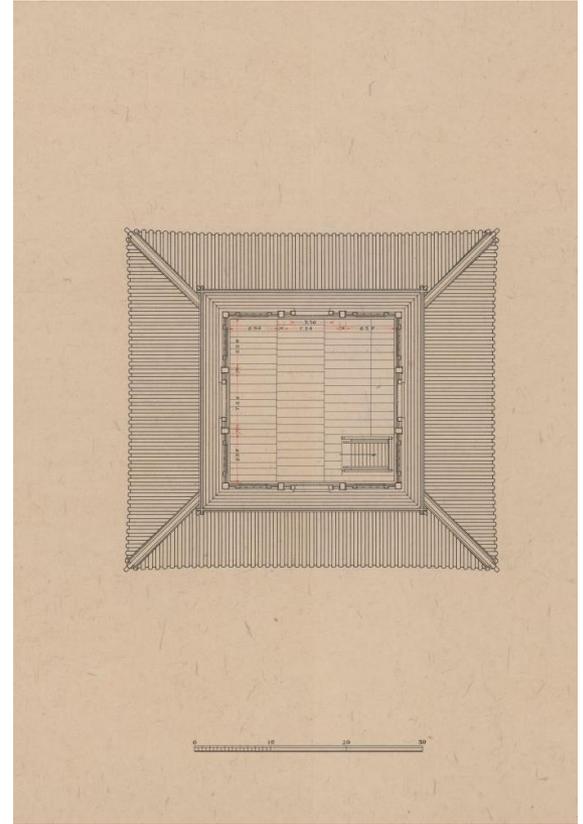
## (3)保存図 (実測図)



天守3階平面図



天守4階平面図

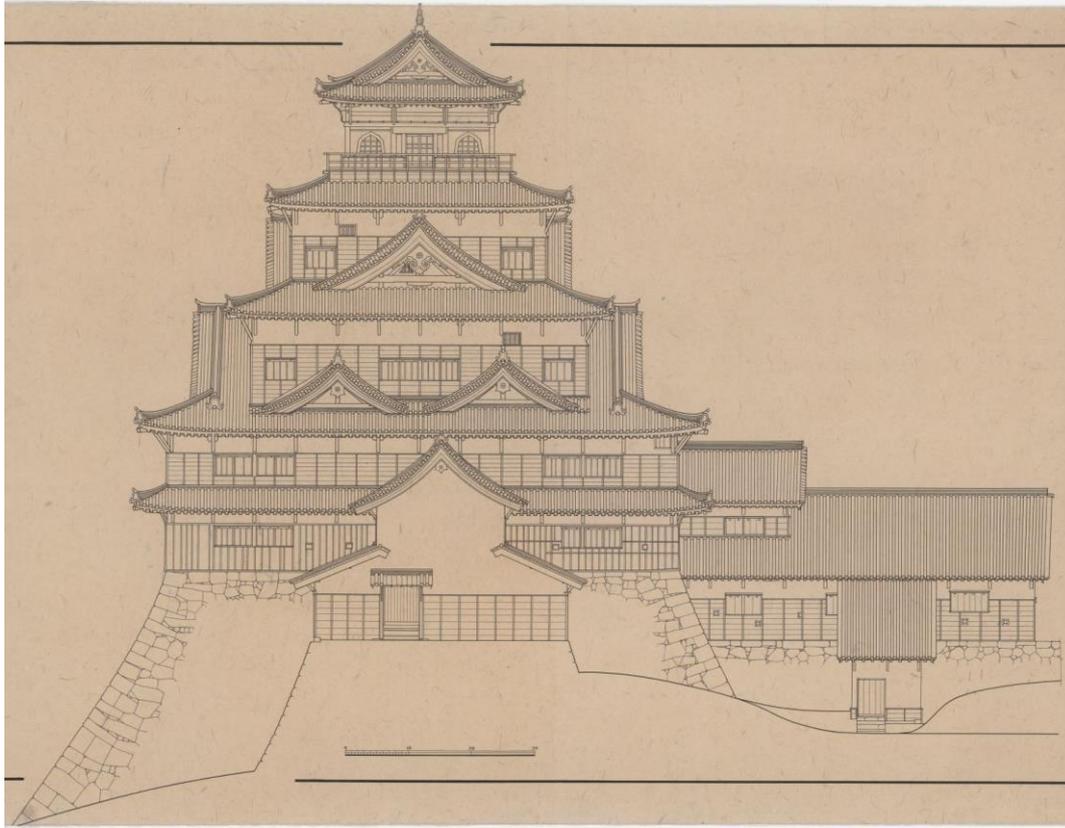


天守5階平面図

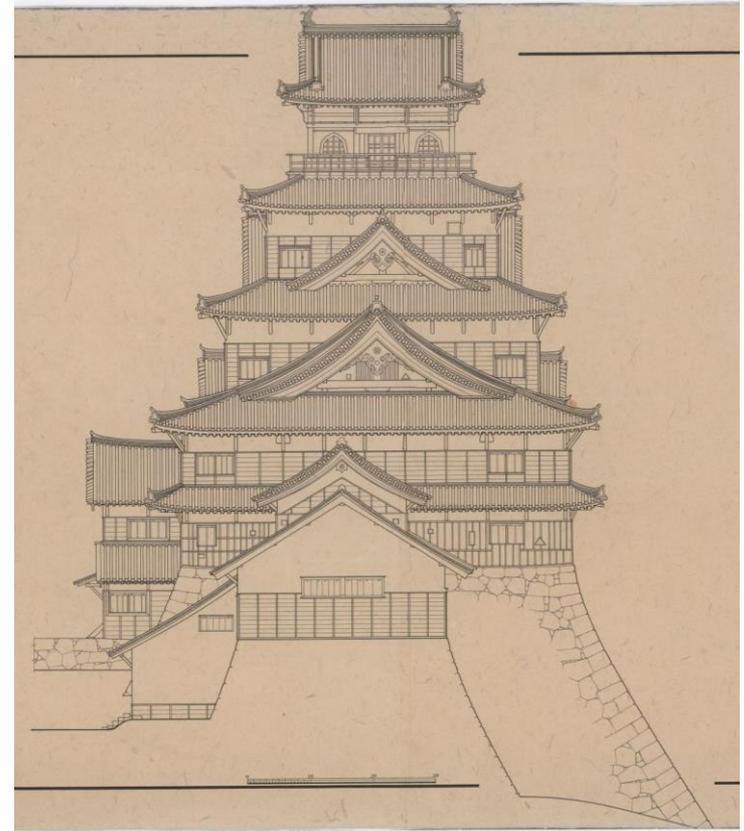
いずれも姫路市立城郭研究室蔵

# 4 主な復元資料

## (3)保存図 (実測図)



天守南立面図

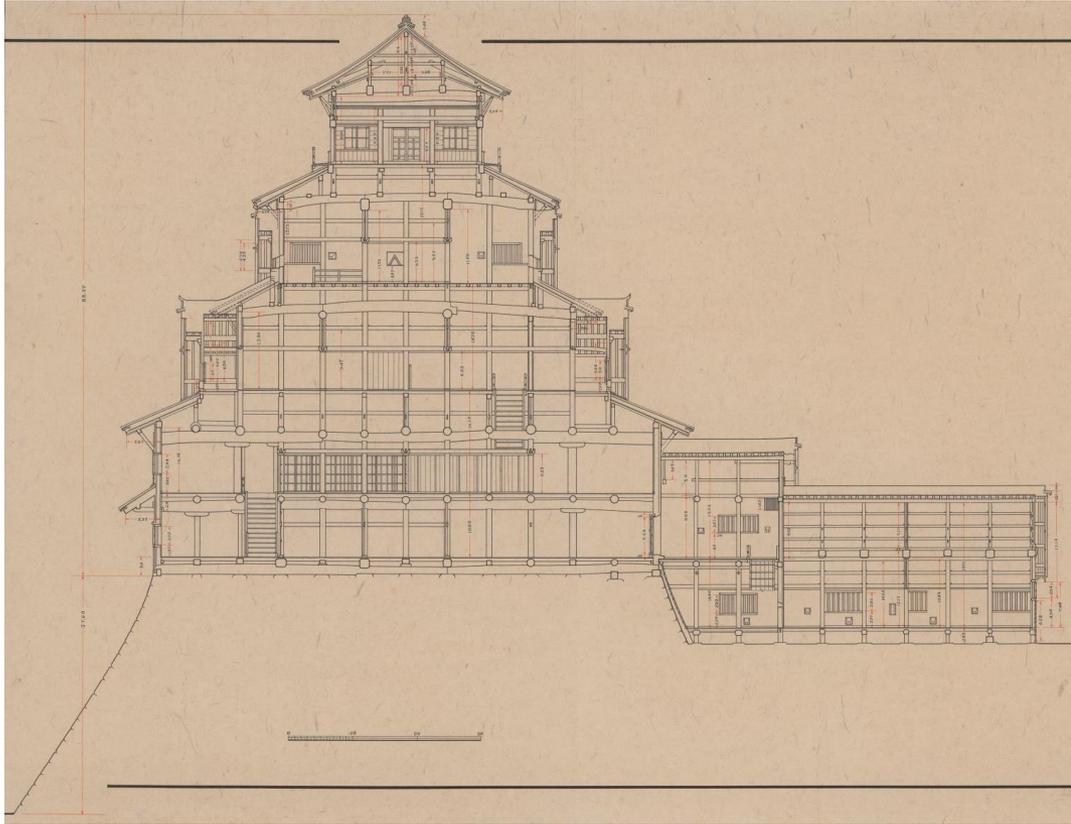


天守東立面図

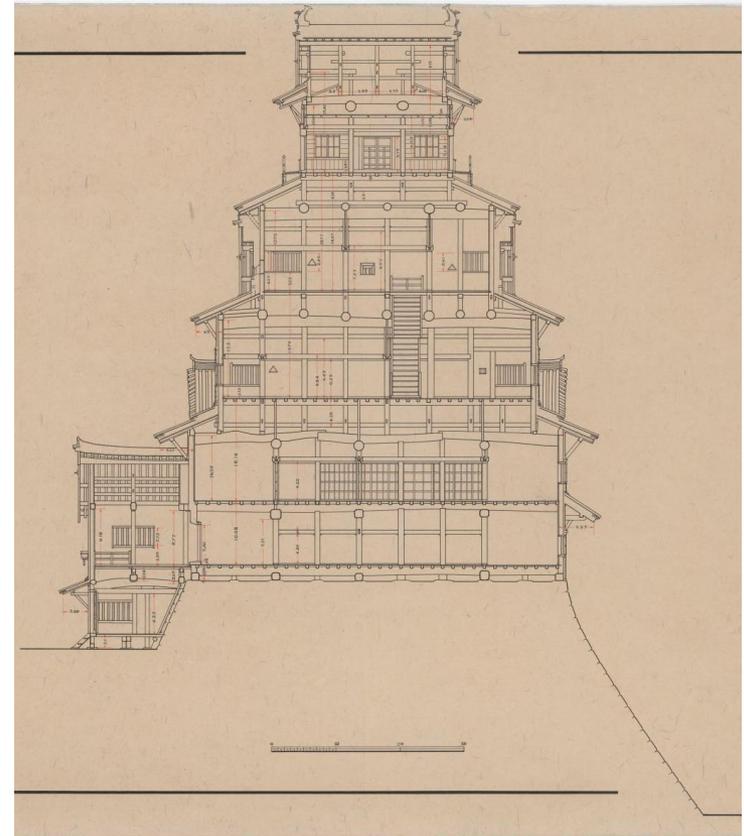
いずれも姫路市立城郭研究室蔵

# 4 主な復元資料

## (3)保存図 (実測図)



天守東西断面図

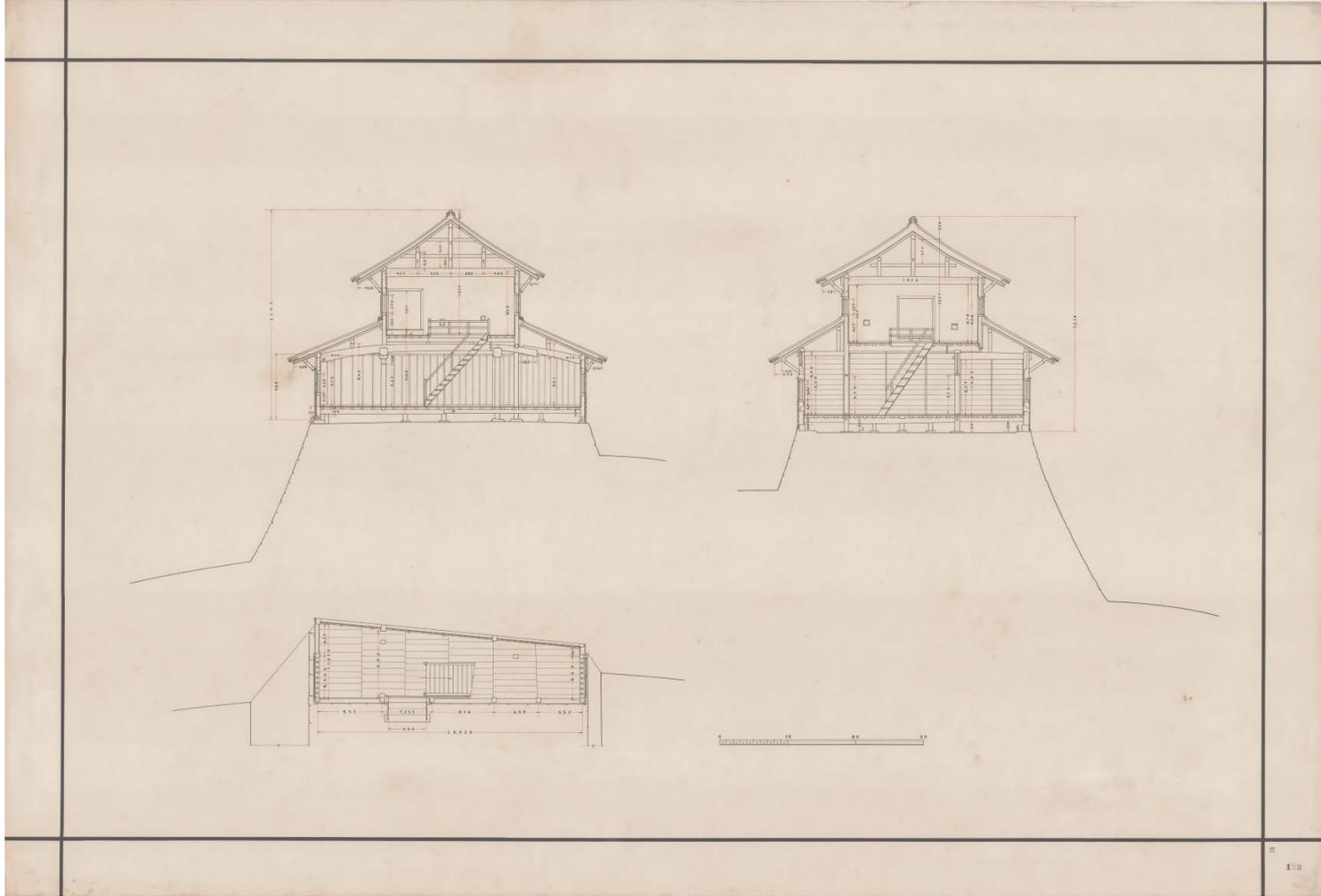


天守南北断面図

いずれも姫路市立城郭研究室蔵

# 4 主な復元資料

## (3)保存図 (実測図)



南御廊下断面図及び南御廊下1階平面図・東御廊下断面図  
奈良文化財研究所蔵

# 4 主な復元資料

## (4)保存図（実測図） 参考資料

### 日本城郭史資料

昭和8年(1933)から旧陸軍が城郭史の本を編纂する目的で日本各地の城郭跡を調査し集めた資料の控をまとめたもの。

「広島城天守閣重要数量表」には、各階ごとに、平面規模や窓の数とその大きさ、狭間の数や形状などが記録されている。

日本城郭史資料「広島城天守閣重要数量表」  
国立国会図書館蔵

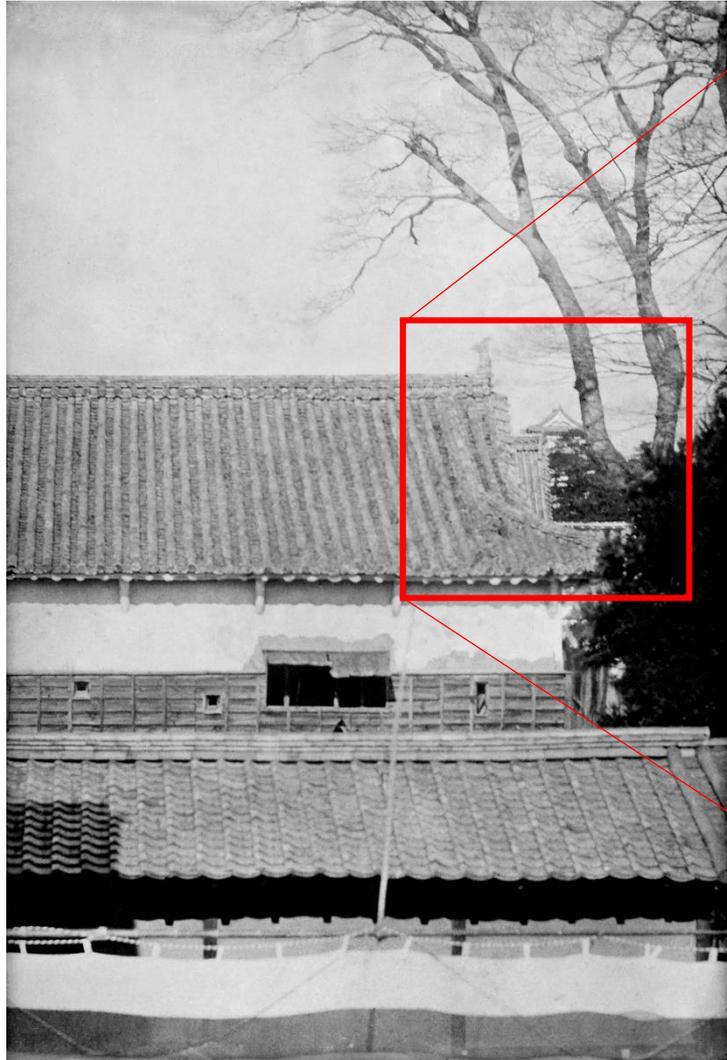
# 4 主な復元資料

## (5)古写真

被写体		概要
天守 (東廊下、南廊下の一部を含む。)	外部	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 絵葉書を含め、各面多くの写真が確認されている（保存図にない北面・西面を含む。）。</li></ul>
	内部	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2階から5階までの一部を写した写真が確認されている。</li><li>・ 1階の写真は確認されていない。</li><li>・ 原子爆弾によって倒壊した天守の姿を写した写真が確認されている。</li></ul>
小天守	外部	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 東小天守北面、東面の一部が確認できる写真1種のみ。</li><li>・ 南小天守の写真は確認されていない。</li></ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 本丸の中御門、裏御門、北東隅二重櫓、二の丸の表御門、太鼓櫓、多聞櫓等の外観写真がある。</li></ul>

# 4 主な復元資料

## (5)古写真



廣寫（広島城天守遠望）

徳川林政史研究所蔵

※元治元年（1864）12月、徳川慶勝撮影

# 4 主な復元資料

## (5) 古写真



天守南面写真

『史跡広島城跡資料集成 第一巻』より

# 4 主な復元資料

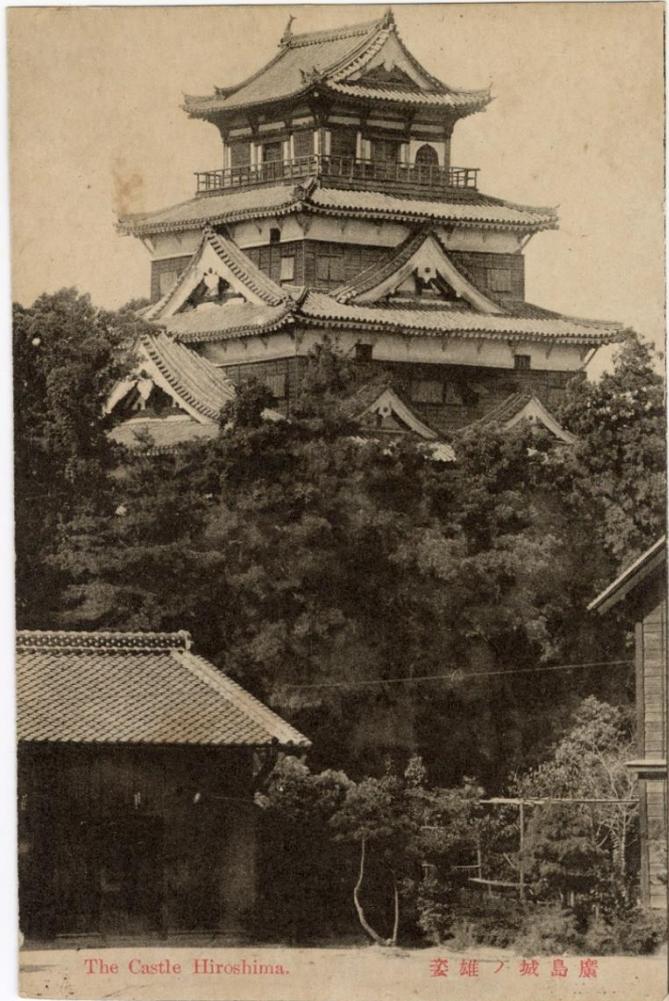
## (5)古写真



天守西面写真  
個人蔵

# 4 主な復元資料

## (5)古写真



天守北東面写真  
個人蔵



天守北西面写真  
個人蔵

# 4 主な復元資料

## (5) 古写真



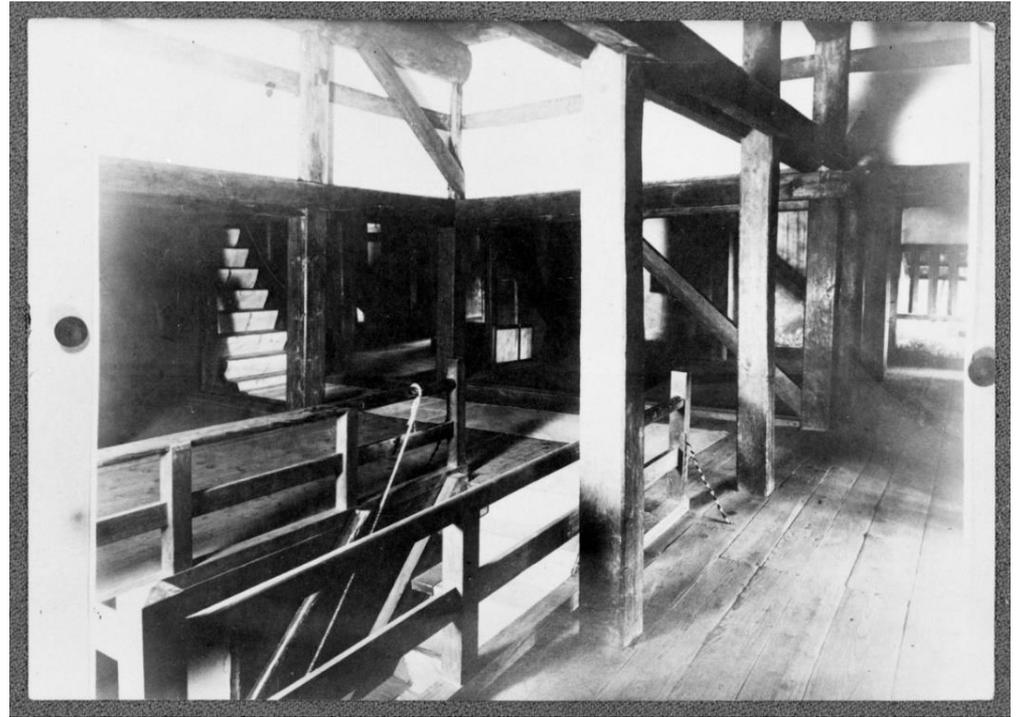
天守東面写真  
個人蔵

# 4 主な復元資料

## (5) 古写真



2階内部写真  
広島市公文書館蔵



3階内部写真  
広島市公文書館蔵

# 4 主な復元資料

## (5) 古写真



4階内部写真  
広島市公文書館蔵

# 4 主な復元資料

## (5)古写真



5階内部写真  
広島市公文書館蔵

# 4 主な復元資料

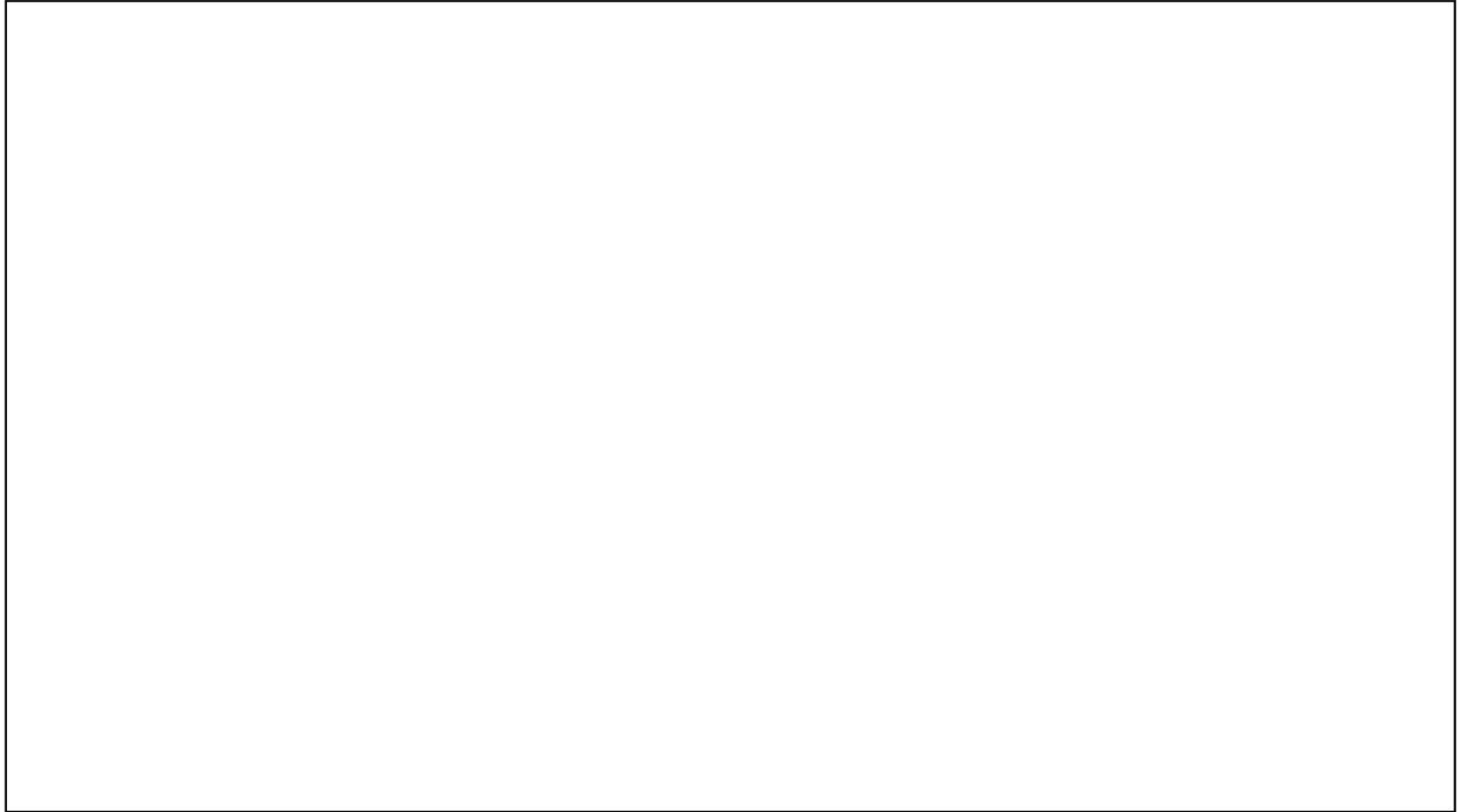
## (5)古写真



被爆後の天守跡（南面）

# 4 主な復元資料

## (5)古写真



天守北東面写真

『大日本全国名所一覽—イタリア公使秘蔵の明治写真帖』平凡社刊より

## 5 現天守の築造について

# 5 現天守の築造について

## (1)経緯

### 広島復興大博覧会の開催決定

昭和32年(1957)2月、一年後を期して「復興と産業文化の進展に資するため博覧会を開催しては」との議が市幹部間に持ち上がる（『広島復興大博覧会誌』p.6）。

同年3月、市議会全員協議会において、会場施設として、「広島城の復原」など「恒久施設」を造営せよとの要望が出され、検討した結果、「広島城天守閣を復原して、第三会場に使用」する案が浮上する（同書p.56）。

同年6月、広島復興大博覧会の開催が決定される。

「開催趣意書」（昭和32年6月1日）（抜粋）

時あたかも、市制施行七十年を迎えるにあたり、わが広島市の過去の歩みと力強い復興の姿とを広く内外に紹介するとともに内外の産業科学の粋を展示し、わが国の産業と文化の振興発展に寄与するため、ここに広島復興大博覧会を開催する運びとなりました。（同書p.299）

# 5 現天守の築造について

## (1)経緯

### 鉄筋コンクリート造による外観復元が決定

昭和32年(1957)5月、広島城天守の復元を含む予算が可決される。鉄筋コンクリート造による外観復元であった。



昭和32年5月18日 中国新聞記事

# 5 現天守の築造について

## (2) 広島市民の「天守再建」に対する思い

誰の心にも郷愁というものがあるが、広島の人たちは一閃の原爆で郷愁のもってゆき場所を失ってしまった。

荒れはてている広島城跡を見るとその感がひとしお深い。

そこでぜひとも広島城跡を再建したいと思う。

私たちが昔日の広島城の面影を常に頭に浮かべ、また伝統を重んじることも非常に大切なことではありますが、それだけバク大な費用をねん出して得るものとすれば、まだ鯉城の再建以上に市民全体の福祉に役立つ悪路の改良とか、文化関係の仕事が山積していると思います。

広島城再建は、ようやくにして、平和都市建設の力が古きもの、失ったものへおよぶというひろがりを示す。

年々に広島は美しい街になっていくだろう。

明年花のにおうころにはぜひとも天守閣を仰ぎたいと思う。

中国新聞 市民投書より  
(上段) 昭和32年5月22日  
(中段) 昭和32年5月25日  
(下段) 昭和32年6月1日

# 5 現天守の築造について

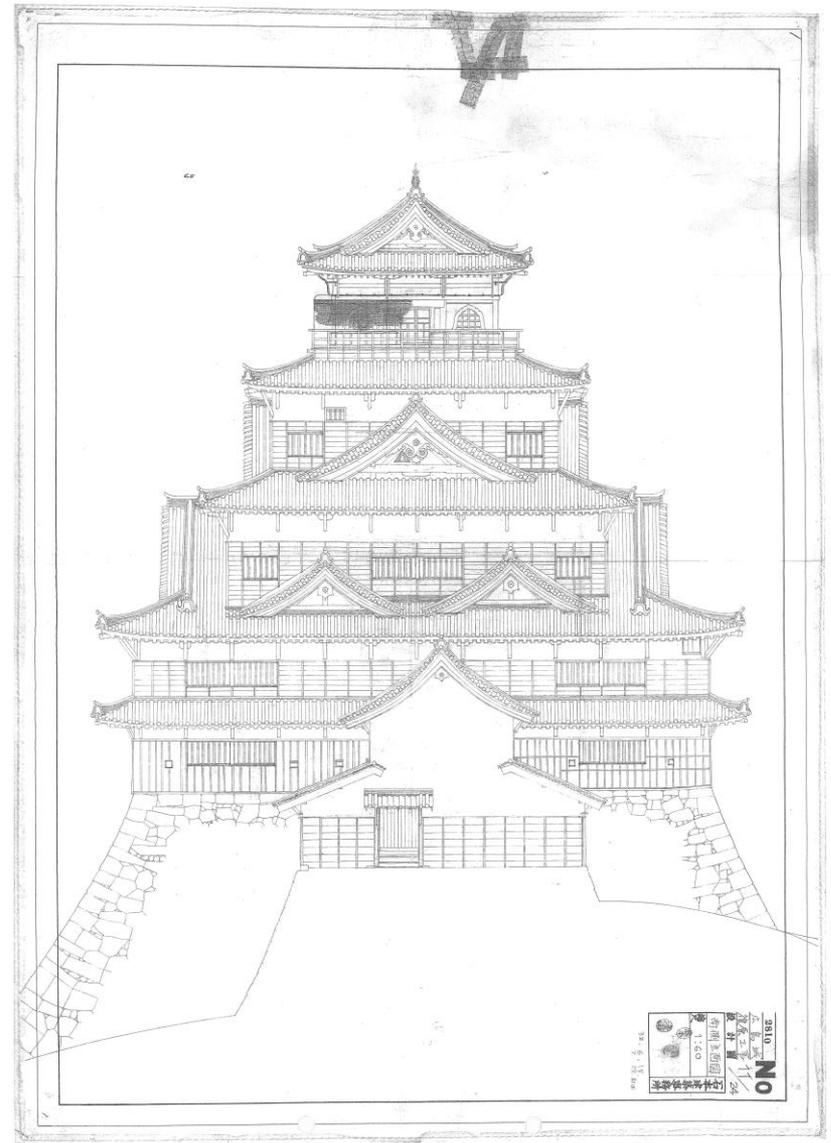
## (3)築造までの全体スケジュール

年	月日	事項
昭和32年 (1957)	2月20日	広島市幹部会において、広島復興大博覧会の概要が決まる。
	3月	市議会全員協議会において、広島復興大博覧会に際しての天守復元案が出される。
	5月 1日	広島復興大博覧会事務局が設置される。
	5月17日	広島市幹部会が広島城天守の復元を決定する。
	5月31日	広島市議会が広島復興大博覧会の予算を可決する。
		事業期間 10か月
昭和33年 (1958)	3月26日	竣工
	4月 1日	広島復興大博覧会が開催され、第三会場となる。 (会期は5月20日まで)
	6月 1日	「広島城郷土館」として開館する。

# 5 現天守の築造について

## (4) 全体の設計図面

文部省が戦前に作成した保存図に基づき、設計図面を作成。



設計図面（南立面図）

# 5 現天守の築造について

## (5)外観復元年代

昭和32年(1957)11月、「すべて築城当時の姿に復元する。」という文部省中央文化財保護委員会の方針が決定。

築造以降、幾度も修復・改変が行われたと考えられることから、外部構造について「築城当時」のものを知る手がかりがなく、他城郭事例や諸研究を参考に有識者や文化庁職員の指導によって「築城当時」の姿にできるだけ近づける努力がなされた。

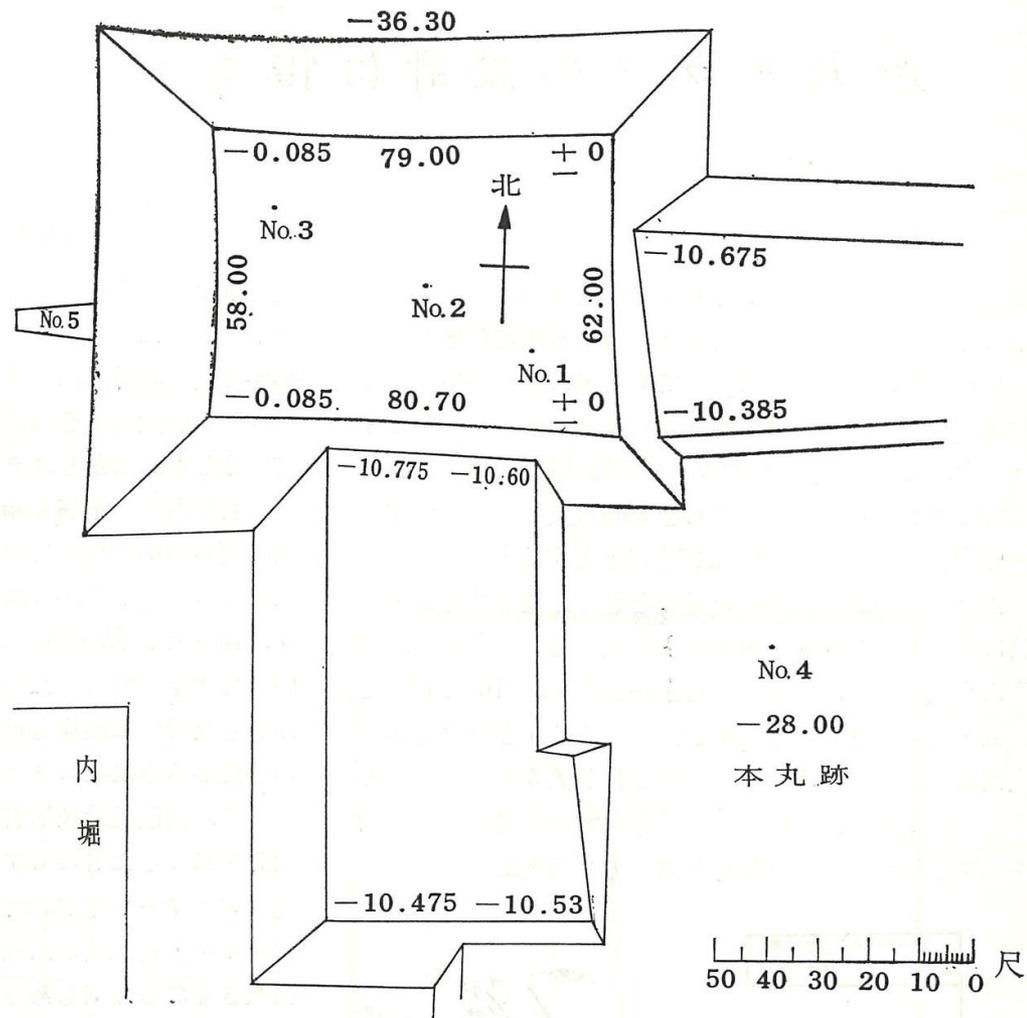
(参考) 『広島城の50年』(平成20年、広島城)p. 20

# 5 現天守の築造について

## (6)石垣保存策

### ボーリング調査の実施

天守台の地盤を確認するためのボーリング調査を実施。



平図面 (ボーリング調査実施箇所No. 1~4)

『支部報 鯉城 No. 5 1975』

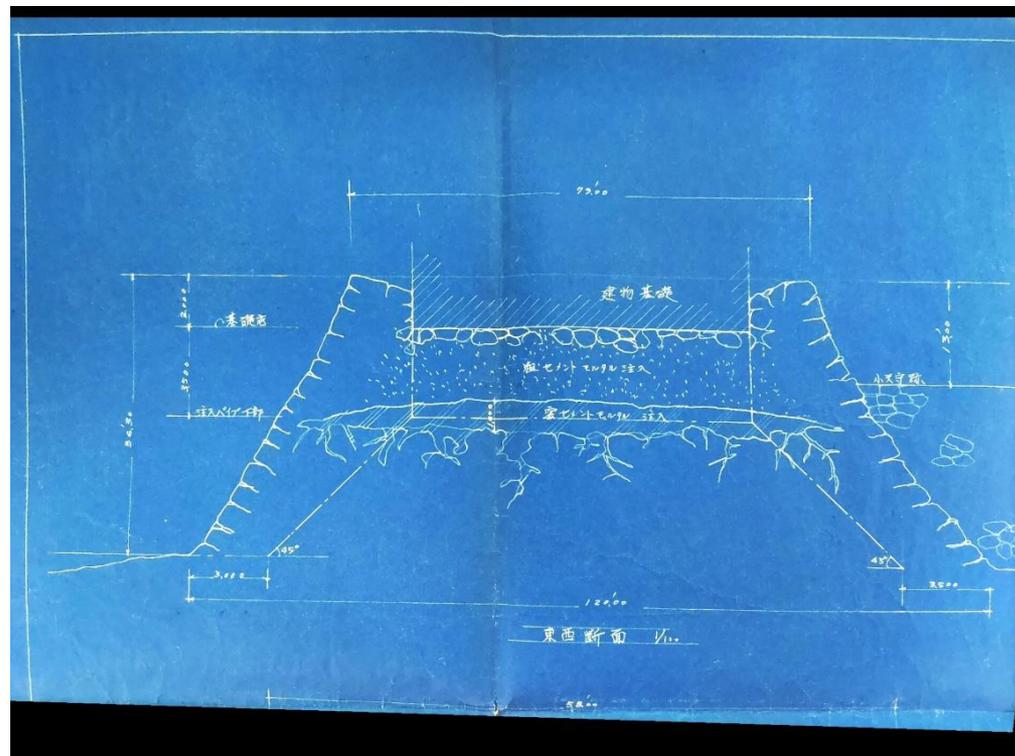
広島県建築士会 広島地区支部より

# 5 現天守の築造について

## (6)石垣保存策

### グラウト工法の採用

天守台に負荷がかからないように石垣から2mを残して中央をくりぬき、モルタルなどを基礎部分に注入するグラウト工法で栗石を固める工事を実施。



基礎グラウト図  
広島城蔵

# 5 現天守の築造について

## (7) 竣工

工事は昭和32年(1957)10月20日に始まり、翌年3月26日に竣工。



竣工直前の広島城天守  
明田弘司氏撮影／広島市公文書館提供

# 5 現天守の築造について

## (8)昭和の築城ブーム

### 外観復元天守

昭和30年代から40年代半ばにかけて、第二次世界大戦の戦災や戦後の火災で失われた天守の外観を模した建物が各地で建設された。

その多くが鉄筋コンクリート造（RC造）であった。

RC造建物の耐用年数は、約50年とされている。

戦後に外観復元された主な天守

年	天守
昭和33年(1958)	広島城天守
昭和33年(1958)	和歌山城天守
昭和34年(1959)	名古屋城天守
昭和34年(1959)	大垣城天守
昭和35年(1960)	松前城天守
昭和39年(1964)	岡山城天守
昭和41年(1966)	福山城天守

## 6 木造復元に関する経緯及びこれまでの調査等について

## 6 木造復元に関する経緯及びこれまでの調査等について

### (1) 史跡広島城跡保存管理計画、整備基本計画

昭和63年(1988)4月 『史跡広島城跡保存管理計画』

#### 第4章 整備計画

##### 3 整備計画

##### C 管理施設等整備計画

- ④ 天守閣は、昭和33年に鉄筋コンクリートで原形を模して復元されたものであり、現在郷土館として活用されている。これは景観的にも城跡理解の上でも不可欠のものとなっているため、今後も継続して活用することとする。なお、天守閣の耐用年数経過後の取り扱いについては、今後の検討課題とする。(p. 107)

平成元年(1989)3月 『史跡広島城跡整備基本計画』

#### 第3章 詳細計画

##### 2. 本丸整備計画

##### (1) 遺構整備

##### ① 城郭建造物の復元

本丸において復元する城郭建造物としては、中御門、裏御門、天守閣・東走櫓・東小天守・南走櫓・南小天守等が挙げられる。

(p. 150)

# 6 木造復元に関する経緯及びこれまでの調査等について

## (2)耐震診断の実施

令和元年度(2019)、建築後61年が経過した現天守について耐震診断を実施。

Is値の最小値が0.3未満となるなど、「大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。」ことが判明。

【判定指標：Is値<sup>※1</sup>≧0.75 q値<sup>※2</sup>≧1.00】

	階	X方向（東西方向）		Y方向（南北方向）	
		Is値	q値	Is値	q値
現天守	5階	0.63	1.25	0.63	1.25
	4階	0.60	2.08	0.58	2.04
	3階	0.19	0.66	0.20	0.71
	2階	0.73	1.27	0.46	1.26
	1階	0.47	1.49	0.37	1.29

※1 Is値：構造体の耐震性能を表す指標

※2 q値：地震による水平方向の力に対して建物が耐えることができる強さを表した指標

## 6 木造復元に関する経緯及びこれまでの調査等について

### (3)全国的な議論の動向

文化庁から、次の基準や取りまとめが公表された。

令和元年8月

「天守等の復元の在り方について（取りまとめ）」

令和2年4月

「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準」

参考資料1を参照。

令和2年6月

「鉄筋コンクリート造天守等の老朽化への対応について（取りまとめ）」

1. はじめに

○RC造天守の建築物については、木造か延命化のどちらが史跡等の本質的価値に資するかを検討したうえで、今後木造による再現の可能性を模索するなど、個別の史跡等の事情により様々な整備方策を執ることが考えられる（後略）

## 6 木造復元に関する経緯及びこれまでの調査等について

### (4) 広島城のあり方に関する懇談会における意見

耐震対策（耐震改修又は木造復元）の方向性などについて、意見交換を実施（令和元～2年度、全6回）。

令和3年(2021)3月、木造復元を目指し本格的な調査検討を進めるよう提案する意見や、木造復元の実現に当たっての次の四つの課題などが整理された。

- ① 構造物を支える石垣の状態を調査し、補強の要否を確認すること
- ② 木造復元、石垣の修繕等を確実に進めるための事業推進体制を確保すること
- ③ 事業を推進するために必要な財源を確保すること
- ④ 公的費用も含めた財源の確保に当たっては、市民の了解を得るための機運の醸成を図ること

## 6 木造復元に関する経緯及びこれまでの調査等について

### (5)石垣の現況調査

令和3、4年度に天守台及び小天守台の石垣について、3次元レーザ測量と写真撮影による石垣表面の調査、地中レーダ探査やファイバースコープ等による石垣内部の調査を実施。



調査実施状況



石垣 3Dモデル

# 6 木造復元に関する経緯及びこれまでの調査等について

## (6)復元資料の収集・整理

令和3年度から、復元の根拠となる絵図や図面、古写真等の収集・整理を実施。

## (7)市民の機運醸成



**広島城トークイベント**  
知っていますか？本当の広島城を。  
～市民が知らない!? 広島城のチカラ～

日時 **令和4年12月11日**  
13:00～16:00

会場 **JMSアステールプラザ中ホール**  
(広島市南区中野1-1-1)

出演者  
① 250名限定(先着順)招待申込制・参加費無料  
※定員に達し次第、募集を締め切ります。  
※新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、参加人数を制限する可能性があります。  
Webサイト(右のQRコードから)又はFAXで申し込みください。  
Web: <https://forms.gle/YuzoHGDAb6P9YG>  
FAX: 082-221-1719 (記載事項 必須) 郵送受付 申込書等 申込メールアドレス 申込書への返信  
11月30日(金)午後11時15分(申込締め切り)

出演者への質問大募集!!  
※全ての質問に本等々で多くのお答えが返ります。  
ご了承ください。

主催: 広島市 / 共催: 広島経



広島城トークイベント (令和4年12月11日、JMSアステールプラザにて開催)